

水源禅師法話集 36

(2014年10月5日 京都法話会)

2015年10月13日

一乗会



アロートピュエ長老が20年間、瞑想して
出現されたアロートピュエ仏陀

目次

水源禪師法話.....	1
『金剛般若經』の「一切有為法、如夢幻泡影、如露亦如電、応作如是觀」.....	1
『宗鏡録』の「一心而（中略）照名觀」.....	2
御嶽山の噴火と生駒山の瞑想.....	4
宇宙の因縁の法則—達磨大師と慧可大師・武帝—.....	6
ジャーナ（禪定）について.....	8
水源禪師が捧げた『般若心経』の法（大心）.....	9
数字には全て意味がある.....	11
執着—焼石を手に持っている状態—.....	12
体験者だけが解説できる極秘の世界.....	13
質疑応答.....	22
法とは愛をいかにしてつかむか.....	22
神について.....	25
いかに私たちは針の穴の中で生活しているか.....	29
因果の法則を超える神はなし.....	31

水源禪師法話

『金剛般若經』の「一切有為法、如夢幻泡影、如露亦如電、応作如是観」

お釈迦様がこの言葉（パーリ語）で説法されたので、この響きによって心が共鳴していくということです。北伝はサンスクリット語、つまり、その時代は王宮皇族とか、一般の読み書きは全てサンスクリット語で書かれていますので、後にサンスクリット語で広まったのですけれども、実はパーリ語で、スリランカの方で今から 1600 年前に「原点に戻ろう」ということで、パーリ語の経典で、ブッダゴーサという阿羅漢様がもう一回、経典をかき集めて書いたわけです。

また、「ティピタカ」（三蔵）といって、「三つのバスケット」といって「三蔵」ということで、今でもミャンマーでは 12 人が暗誦できます。スリランカでも暗誦できる方がおられるらしいです。でも、その中で一番大切なことは「瞑想してください」というメッセージです。私たちは、今は文献によってしか真実を追求できないという、非常に難しい時代におりますけれども、文字が一体どうなっているかということすら、検証できないようになっております。

つい先日、質問がありまして、個人的に質問がありまして『アビダンマッタサンガハ』の重要な一節で、時間の単位が「1 弾指」「1 刹那」「1 兆」という現代の数と、それから「1 弾指」、それから「1 刹那」とかということが、結局、ルーパー（色）の物質のことにに関して入ってくるのですけれども、心の振動とか、それが明快に一つも解説されていません。

1 心刹那とは、心が 1 回生滅する時間をいい、それは 1 弾指の 1 兆分の 1 程度という極めて短いものである。この 1 心刹那を更に細かく見ると、それは生・住・滅の 3 位に 3 等分され、等分された 1/3 に当る時間を刹那と言っている。従って生位などを生刹那、住刹那などという。なお、この刹那を小刹那、その 3 倍である 1 心刹那を大刹那とも称する。
（『アビダンマッタサンガハ』 95 頁）

ということで、いくら文字で「こうかな」「ああかな」「これだな」と思っても、基礎知識がしっかりしていないので、いくら大きい、すばらしい叡智を「こうかな」と覚えても、それは土台がしっかりしたところに立っていないので、いずれにしろ崩れてしまいます。

つまり、『金剛般若經』という、達磨大師が「これが最も大切だ」ということで、最後の詩に、お釈迦様はこう言ったわけですね。「一切有為法、如夢幻泡影、如露亦如電、応作如是観」（一切の有為法は、夢・幻・泡・影の如く、露の如く、また、電の如し、応に是の如きの観を作すべし）、これを一体どういうふうに読めばよいのかと。全て一切の私たち生きとし生ける、このできている、この世界、法ですね、法によって、これは陽炎のごとく、また、その映画のように、影のように、そういうものであると、泡のごとく消え去りますと。そこまでは大体、分かりますね。

「一切有為法」、これを「顯密」と言います。「顯」というのは表に顯れて、少し深く考えた場合には、そこまでは分かります。極秘の世界の「密極」と言いますね。これが「如露亦如電、応作如是觀」となります。極秘の世界になります。

では、「如露亦如電」、それは空中から突然、笹（ササ）の葉に朝方、露がすうっと出てきますね。無から有、つまり「有、無を觀なさい」ということ。これはもう文献では知ることができない、「顯密」の世界ではなく、文字とか難解な考えで、そこを解き明かせません。はて「有、無、ある、ない」。これがもう禪の世界。というか、もう瞑想の世界でしか解析できません。そして「如露亦如電」、その稲妻、これはどういうことか？「たぶん一瞬にして消えてなくなるのか」と。ま、それもよろしいでしょう。

でも、その極秘の世界はこうなっています。稲妻がパッと光ったときに大体 1/3 秒、実際は科学的に 0.32 秒。そのことを『アビダンマッタサンガハ』で「1/3」と言っているわけ。では、「1 兆」というのは何か？ 皆さんコンピュータあるでしょう？ あなたの心は 0.32 秒間に 1 兆、1 テラバイトの速さで動いている。タッタッタッタッタッタッタ、このことです。そういうことはアビダンマの解説の一つもないし、ただ数字を投げ与えているだけ。

「1 刹那」というのはマイナス 18 の 0 が付きます、マイナス 18 乗。10 のマイナス 18 乗ということですがけれども、また他の文献を見れば、75 分の 1 秒と解説するわけです。実際の心の速さの感情は 1 アトと言って、マイクロつまり 100 万、それから 1000 分の 1、ナノの世界、マイクロの 1/1000 がナノの世界。その 1/1000 がピコかな、そのまた 1/1000 がフェムトで、もう 1/1000 がアト、この世界の単位で時間が動いています。

つまり結局、原子核の大きさは 1 アームストロングという、そこからアームストロングが来ています。つまり、10 ナノということは大体、原子核が 5 個くらい並ぶわけですね。そのスペースで、このバイブレーションで私たちは生きているわけです。ということまで、現代においては説明しなければいけないわけです。

そういう基礎知識がなくして、ただ「1/3」、それから「1 兆」「1 刹那」「1 弾指」、分かったようで、この基礎の数字がなければ、心のナーマ、名色の名というのはナーマのことです。色というのは物質、地水火風、この四つの物質を觀なければ、この世界がどうなっているか分からないというわけです。それで「如露亦如電」、発生消滅、有無、その回答として稲妻を与えているわけです。「深くそれを觀察しなさい」と。

『宗鏡録』の「一心而（中略）照名觀」

昨日はニミッタ（禪相、丹光）のことについて「そういう文献は大乗にあるのか？」と。「それは 1000 年前にありました」と。今日、奇しくも「一心而（中略）照名觀」（一心をもって名を照らし觀る）、一心、一つ。禪の心ですね。「照」というのがニミッタのことです。それでもって「名」、ナーマ（名）をヴィパッサナー（觀）で觀なさいということなのです。

これは 1000 年前、宋時代のときに書かれた大蔵經の中にあります。『宗鏡録』第 82 巻の中に、これが書かれて、これを書いた人は延寿様という方で 904 年から 975 年、この印刷された教本は北宋時代の 1108 年です（『京都新聞』「名品手帳」2014 年 10 月 5 日付、朝刊、第 17

版、第1面)。

だから、昨日こうすれば「ああなるほど」と、私の言ったことが「南伝も北伝も違わない」ということですが、結局、南伝の方だけ一生懸命「テーラワード、テーラワード」と言っていますけれども、もう北伝にもちゃんとあるのですが、誰もこれを解説していない。明快に「一心をもって名を照らし観る」と書いてある。これはヴィパッサナーの極意のところ。ナーマといたら、この1秒間に1兆のスピード、1テラバイト。その世界を観なければいけないわけです。これをヴィパッサナーと言います、観。ここの経典を読めば止観、サマタ(止)・ヴィパッサナー(観)ちゃんと書いています。

だから、私が昨日、何回も「チベット仏教も密教も大乘の北伝も南伝も違わない」ということを、北伝の最たる長と、また南伝のパオ僧院の最たる長と談義して「そのとおりです」と、どちらも解説しています。違うわけがないわけ。

ただ、一般の人はスマナサーラさんの名前を書きますけれども、彼はこの大乘教の経典を少しも読んでいないはず。だから、それに惑わされて「空即是色は間違い」と。つまり発生、消滅の「如露亦如電」を全然、観ていないわけ。学識でやったら、顕密でやったら、「それしか観えない」ということ。だから、ここで大切なことは、瞑想によって「法随観」という方法があります。「四念処」という、それを「サティパッターナ」といっています。

つまり、そういう行法をやる人がいないから、全部外しておきます。というのが、今の私たちの現状だから、その文字を追って解析しようと、それはある程度、読むのはよいのですが、そこに真理があると思ったら、もう根底からはっきりと1000年前に載っているこれを見捨て、今度は南伝のテーラワードにあるから、それが最高だと。それはよいのです。それを、身をもってちゃんと観たらよいのだけれども、観ないで顕密でやるということが大きな間違いで、お釈迦様が言うには「顕密、秘極(極秘ということですね)、この世界、極秘の世界はもはや紙にも表せない、色でも表せない、心だけで分かる、理解できる」と。「顕密、秘極」というのは結局、非常に大切な科目の表し方で、これは密教の一番大切なところ。「顕密だけではダメです」と。「秘極の世界まで知ってください」と。

だから、それを全うした人は必ずや私のことが分かるし、現代において解説しなければいけないわけなのです。いまだにその本は日本では発見されていません。こうして過去にこういう「一心をもって名を照らし観る」という、これ自体も解説した人は誰もいないでしょう。

「照」とは何か? 「ニミッタ」というのは「心の光」で当てて、それで観えるわけで、ちょうど真っ暗闇を懐中電灯で当てるようなものです。それで「照」です、当てる。何を照らすかと、「心の光」。それを「月輪」「禅相」とか、いろいろな呼び方がありますけれど、今、流行りのニミッタ、ニミッタ、あ、すごい! 何とか。それはもうここにあるのだけれども、「月輪」という言葉もあるのだけれども、誰もそれを実際に(解説しておらず)、アナパナ(安般念(安那般那念))という字もあるし、弘法大師様は昔「アナパナをする行者は甚だ少なし」と、もうその時代からそうになっている。

皆さんとお話するとき、顕密の世界でやれば、非常に簡単なわけです。結局「文章はあるか? それか、そういうものが存在するのか?」、「もちろん存在しますよ、1000年前」と。昨日、言いましたね。これがそうです。質問するのは簡単ですよ。これを分かったとし

でも、結局、極秘の世界に入るには瞑想しかないわけです。でも「瞑想はしたくない」と。では「何のために、こういう質問をするか」ということ。お遊びになります。仏教のお遊び。「仏教は好きだ」と。

たしかに、「仏教」の「仏」という名は、アフリカに行ったら、何のことか分からないし、「仏陀」と。南米に行ったら「化け物が言うまじない師の言葉」とか。今から40数年前、カナダに行って、仏教のことを話したら、皆、飛び上がるくらい悪魔の言葉としか思わないわけです。今は何と逆転して北米の5%くらい仏教に帰依する人が増え始めています。それも大体、超大金持ちか、結局、非常に学歴の高い方ばかりで、残念ながら。ま、そう言ったら差別になりますけれども、そういう一般の人は「ありがた教」になるわけです。頼んだらもう何でもすぐ仏が叶えてくれると。これは神の信仰であって、お釈迦様は「これはあり得ません」と言っています。

だから、北米で結局「仏陀は神と一緒にだ」という、混同して教える大きな間違いも発生しています。確かに観音様に願えば叶います。確かに仏陀に深く帰依すれば叶います。それが「全能の神が全部、創り出したから」と、そうではなく、つまり、心と心の「心心伝印」という仏陀との心がつながったときに、すごいカルマ（業）が発生して、実はないはずのものが発生すると。

ただし、そのときに「仏法を知りたい」という法で、結局「化作」というか「方便」というか、それで引っ張っていくためのことであって、やはり最高のところは「法をいかにしてつかむか」と、「その道にいかにつながるか」ということでもあります。法に触れた場合には、この地球が一瞬にして破滅しても、全く問題ないわけです。

御嶽山の噴火と生駒山の瞑想

たとえば「御嶽山がボーンと爆発した」と。こういうことは科学的にあり得ないわけです。科学的に絶対、発生しないことが発生したわけです。こういうことを誰も新聞で説明しないでしょう？ あのマグマは水に当たっていないのです。その上の湖というか水が地下には必ずあるわけです。やかんをいくら温めても、ほとんど爆発することはないわけ。

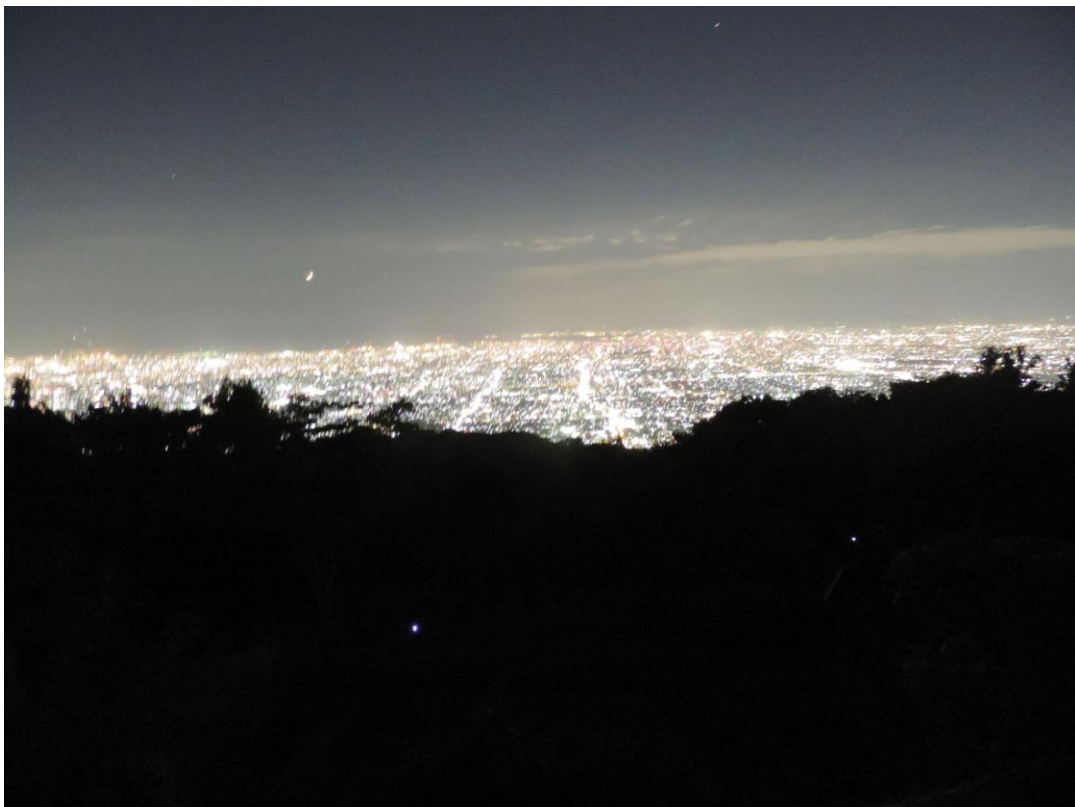
ということは、この地球がいつでも爆発する状態、いつでも地下水があるし。マグマも離れているわけ。マグマというものが水に当たったときに、水を真っ赤な鉄に当ててください、バーッとなるでしょう？ 当たっていないから、そういうことが発生することは、まずあり得ないわけです。

水を入れてやかんを置いてください。相当の時間をかけて蒸発してしまわない限り、ダーッと爆発しないでしょう？ 振動も起こるはずないわけです。あれだけの千トン万トンのガスを発生させる水ということは、必ずや強烈なエネルギーがそこにあって、マグマでしか発生しないのです、火山というのは。あれは死火山だったわけ。つまり、今のところ、やかんに水をいっぱい入れて爆発したという現象なわけ。それをなぜやかんに水いっぱい入れて爆発するのかと。ということは、まだまだ先の科学的な解析であり、分からないわけです。だから「科学、科学、科学」という今、最先端の科学でもそれくらいです。

ただ、そのとき、奇しくも私たちは生駒山で瞑想していました。なぜ、その生駒山で瞑想したかと言えば、この現代の日本の王朝を造った神武天皇が、そこで三種の神器を受け取ったわけです。それを発見したのが、結局インドネシアのボロブドゥールという密教最大の構造物、世界最大の建造物があるわけです。そこに行って護摩焚きをやって、ここを発見したわけです。

なぜかといったら、そこで青不動、赤不動が出てきたわけです。二つの建物。ムンドゥとボロブドゥール。その中間点がパウオンというところで、それがまた聖なるポイント、聖なる点と言いますね。ギリシャとか西洋ではHoly Point に当たるわけです。真ん中ではないのです。というゴールデンポイントにあって、そこで瞑想して、またまたすごいことが発生しましたけれども、では「高野山の赤不動、東寺の青不動、ここのゴールデンポイントに必ずやお寺があるはずだ」と。「調べてください」と言ったら、生駒山のその場所だったわけです。

そこで弘法大師様が高野山に行く前に護摩焚きしたわけです。インドネシアに行かなければ、これは発見できなかったわけ。今、生駒山のその場所が、神武天皇が三種の神器を受けたということ（皇室は、そういう神事を扱う方は、別ですよ）、一般の人は全く知らないでしょう？ 私もそうで、雲をつかむような話ですけど、そこなのです。



生駒山からの夜景

宇宙の因縁の法則—達磨大師と慧可大師・武帝—

なぜ、私がそこで法をしなければいけなかったかと言えば、結局、達磨大師様がインドから中国に渡って法を置いていったわけです。そういう行者は遠くからパーッとやれば、体を動かさなくてもよいでしょう？ 一般の人は考えて、わざわざ死ぬ思いして自分の弟子を中国に送って、哀れにも二人先に死んだと。

というふうな、お釈迦様から数えて二十八代目の法王が自らそこに行かなければいけないわけです。この体だけがナーマ・ルーパ（心と体）とって名色、法を持つ壺というか、道具なわけです。だから、どうしても中国に行って、その中国の慧可さんに法を心心伝印で植え付けるしかないわけです。そうであれば、コンピュータで、タッタタッタで分かりましたね、そうではないのです。それは顕密の世界で、密極の世界は心心伝印、心と心だけにしか種は植えられないのです。

だから、わざわざチェンナイ、昔はマドラスと言いました。港の町で何千年も栄えた。その第三の王子として達磨大師様は生まれたわけですね。そうしてテクテクと 120 歳のときに海を渡ってインドネシア、ベトナム、広州でテクテクと歩いて「イロチョウ、イロチョウ」と、「化け物、化け物」と馬鹿にされながら、テクテクと歩いていったわけです。

それで、武帝のところに行っても毒殺されるようになって、武帝が「私はこれだけのことをやったから、どれだけの恩恵があるだろう？」と。（達磨大師は）「確かに恩恵はありますけれど、法を持たない限り、それは水をザルに入れたのと一緒です」と。なぜかといったら、この武帝は、前世はお坊さんだったわけです。そのお寺で一生懸命、他のお坊さんに食料を与えるために畑を耕して、そして一生懸命お供えしていたわけです。ただ、そのときに間違ってお猿さんを洞窟に閉じ込めて死なせたわけ、餓死させたわけです。

なぜかといったら、このお猿さんは畑の食物を食い荒らすわけです。でも、お坊さんにお供えする大切な食糧でしょう？ 勉強して、お坊さんが死んでしまうではないですか。猿がどんどん食べて腹が立ったわけですね。それで捕まえて 2、3 日、入れておこうと。それが忘れてしまって餓死してしまった。

だから、お坊さんに食物を与えたということで、すごい高德によって、武帝という、そういう栄華を手にしたのだけれども、これも「法を持たなければ、何の意味もありませんよ」と、達磨大師様が言ったことを彼は知らないわけ。何の意味か、腹が立ったわけ。「これだけ 30 万の比丘・比丘尼を育て、寺も数知れなく寄進したのに、何ということか」と、カーッと来たわけね。それで、6 回も毒殺しようとしたわけ。それで武帝の最期はどうなったかと言えば、その後、このお猿さんが敵の将軍になって、本当の話、武帝の宮殿を攻めに行って、このお城を落としたわけです。それで、この将軍はただ殺さない。宮殿に閉じ込めて餓死させたわけ。これを「因縁」と言います。

だから、法を持てば、そのときに（武帝が達磨大師に）「法を教えてください」と言えば、この事態は避けて、彼（武帝）は涅槃の世界に行けたわけなのです。いつまでも自分の栄華に酔いしれて、お坊さんに寄進したから、「私は絶対に大丈夫」と。でも、宇宙の因縁の法則があります。ただ、お釈迦様の二十八代の達磨大師が来て「インターセプトカルマ」と言い

ますね。この人（武帝）は善いことをしたから、救ってあげようとしたにもかかわらず、毒殺しようとしたから、彼（達磨大師）としても助けようがないから、テクテクテクと自分の二人の弟子の墓を探しに行ったわけ。

その途中で、昨日も話したけれど、靈光という和尚さんが、話せば天から花が降る、大地からは黄金の蓮の華が出てくると。（達磨大師が靈光和尚に）「この經典の行間の意味を話しなさい」と言ったら、（靈光和尚が）怒ってグワーッと来て、数珠でパーンと二十八代の阿羅漢（達磨大師）の歯2本を折ったわけです。だから、今でも中国では「阿羅漢の歯を二つ折った」という歌があるみたいですよ。

私の小さいときにはモンゴルが日本を攻めに来たでしょう？ その小さいときは、いつも「山からモンゴルが来るね」「モンゴリアが来る」という「鬼みたいに恐ろしい」と、1000年経った後でも震え上がったわけ。そういうふうには「白浪五人男」とか、あるいは中国の漢代の革命のときの五人組です。白浪の五人組。それを江戸時代の歌舞伎になって『白浪五人男』とかそうになっているわけ。実体の話が全て私たちの世の中で起こったのですけれども、空想のように皆さん思っているわけ。実はもう脈々と生きています。

だから、そういうふうには、目の前に最高の法を与える人が来ても、見えないわけですね。なぜ、そういう人が現れたかと言ったら、この方（武帝）は前世で尊いことをしたわけですね。「お坊さんを一心に食べさせた」と。その高德によって（達磨大師が）救ってあげようとしたけれども、（武帝は）おごり高ぶりで、それが見えなかったわけ。この歯を折った靈光和尚さんも天から花を落とすし、大地からも、「自分は今絶対涅槃の世界に行く」というおごりがあったわけですね、おごり。（靈光和尚が達磨大師に）「馬鹿者」ということで、パーンと数珠で歯に、顔に当たって、それで歯がポロッと落ちたわけ。普通は、達磨大師は拳法・武術の最たる方で、そういうことは起こらないのだけれど、ちょっとした油断ですね。それで、その歯を出せば、飢饉が襲って、この国の人はみんな死ぬから、歯を2本、飲みこんだわけ。それでスーッと去っていったと。

ま、昨日、同じ話になりますけれど、最後に法を慧可さんに植え付けて、この慧可さんはつまり、靈光さんというお坊さんで、すぐに地獄に呼ばれたわけ。地獄で閻魔大王の宮殿の12人の裁判官に質問されて「なぜ生死を超えたお坊さんの歯を折ったのか？」と。その後で（靈光和尚が）「そういう法を知りたい」と。「その時間だけ下さい」と、テクテクテクと後を追って付いていったわけです。

その達磨大師は少林寺の洞窟、私もそこに坐らせてもらいましたが、それは、それは、もう偉い方が坐ったところだから、もうサーッと時空を超えるところですね。そのウペッカ（捨：平静）の大世界ですね、発生します。そういうところで後ろに坐って、靈光和尚さんは膝でずうっとその後9年間、立ったわけ。この話は日本に伝わっていない。

それで、その後「法を知りたい」と。（達磨大師が）「なぜそこに立ったのか？」、「では、この雪を赤くして、赤い雪を見せてくれたら、法を与える」と。これも「慈悲」なのです。それで彼（靈光和尚）はそこにあった刃物でバーッと左腕を切って、その血でバーッと赤い色にしてあげたわけですね。「赤い雪にしました」と。そこで心伝印という法を伝えたわけ。

なぜ？ 公案と一緒に。「この雪を赤い雪に見せてくれた」と、オロオロしたら、それで

もうおしまい。一瞬にして切って立ち上がって、自分の血で赤く染めたわけ。そのときは痛みを感じません。あなたは手を切っても、一瞬は痛みを感じないですよ、指を落としても。後で来ます。その心心伝印を入れたときに突然痛みが、激痛が来て（靈光和尚が）「先生もう死ぬくらい痛いです」と。（達磨大師が）「その痛みはどこにあるか」と、「外にあるか、内にあるか、どこにあるか言ってみなさい」と。無我の世界に達して、パッとすぐに痛みが止まったわけ。「あ、これは妄想である」と。

ジャーナ（禪定）について

9年間ずうっと坐った。「嘘でしょう？」と。実はそういうことができるのです。ジャーナ（禪定）に入ってしまうと、時空を超えてしまいます。ただし、自分の体は石のようになっています、中に入って。石の中でじっとしているのと一緒なのです。私も長時間ジャーナに入ると5時間も6時間も入っているときに、そこから出てくるときには大体、棺桶から出るのではなく、石の体から出なければいけないわけなのです。だからゆっくり体を動かします。プツーンと切れてしまうからね。本当に石の体になってしまう。だから、石でつくる仏像というのは、そのとおりの状態、ジャーナに入ればそうなります。深いジャーナ、定に入れるわけですね。

「ジャーナといったら何か」と。「自在」は「五自在」（初禪的五自在：1 轉向自在[avajjana vasi] 2 入定自在[samapajjana vasi] 3 住定自在[adhitthana vasi] 4 出定自在[vutthana vasi] 5 省察自在[paccavekkhana vasi]）のことです。この「五自在」を第一禪といい、第二禪、第三禪、第四禪的の五自在によって「心の受想行識」を観る四禪といいますね。「五自在」と言います。これは何の意味か分かりますか？「観自在」の自在、「五自在」のこと。禪、ジャーナのこと。その入り方もあります。

ただし、そういう達磨大師級になったら、傍にいてだけで、一瞬でそこにターッとジャーナに入れてしまえるわけですね。この方（靈光和尚）は9年間、知らないはず。ただひざまずいて気が付いたら9年間ということ。そういう飲まず食わずの夢みたいなことができるのかと。深いジャーナに入ってしまうと、どんなにお腹が空いても、空腹感が消えてしまうのですよ。喉の渇きも消えます。どんなに腹が減っていても、腹が減って食べることができないときは、私は我慢ではなく、スーッと深く瞑想するのですよ。空腹感が全部、消えてしまいます。食べるということも、その後、忘れて、ご飯ができたなら食べるという。

また、ネパールでは6年間、飲まず食わずの「ブッダボーイ」といって、実際に食わずに1年間、こうみんな見に来るわけなのです。「これは聖者だ、すごい」と。ここの寄進はするし、ダーッとあんまりうるさいから、彼は言ったけど、24時間カメラで見られ、お医者さんたちはアメリカ、ヨーロッパから来て「どこか血を抜き取りたい」と、「実験してみたい」と、「一体どうなっているのか」と。

そういう科学的なことばかり考えて、そんなことやって、飛び上がって起きて、もう彼の行は失敗するでしょう？ そういうこと関係ないわけだ。「科学的」という名において、恐れ多くも。それで1年間、隠れて帰ってきて、今度は「地下に埋めてくれ」と。その後、地下

に4年間入って、2、3年前かに出てきました。「なぜ入ったの？」と。「2012年、この地球がもう大変なことになるから」。

水源禪師が捧げた『般若心経』の法（大心）

私が2012年、法灯を燃やしたとき、なぜ私がそこまで行って、法灯を燃やしたかと。私の旅を見たら、実は、この日本は非常に危なかったのです。生駒山に行って初めて分かった。瞑想してダーッと「観自在菩薩」と「三千一切仏」（三世三千仏）の塔を観ました。

結局、色はあったけれども、形とか、名色の名、ナーマのダンマ（大心）が入っていなかった。法というのは、それを体験した人だけが入れられるわけです。一切の『般若心経』の行をしたら、入れられるわけ。だから『心経』というわけ。



水源禪師が大心を捧げた不動尊護摩供

それは全て科目があります。つまりサマタ（止）・ヴィパッサナー（観）、ダンマヌパッサナー、法随観とあるわけですよ。それすらもう分からないわけ。それでパオ方式とか、ゴエンカ方式とか、それは全部お釈迦様から流れてきた方法で、北伝・南伝に分かれて、そうして細かいことで「ああ、テーラワーダ、大乘」とけなし合って、これは全く猿回し。

だから、（ある方が）「私は長くテーラワーダを勉強してきましたけれど、ニミッタという

のは北伝にあるのですか？」と。ちゃんとあります、『京都新聞』「名品手帳」（2014年10月5日付、朝刊、第17版、第1面）に書いています。これ見たって分からないよ、彼は何のことか。行をした人は、この意味がすぐ分かる。「心を一つにして、一心にして、心をニミッタで、月輪の光に当てて、その心を観なさい」ということになる。というのは「受想行識」を観なさいと、「心の仕組み」を。そこで「これが善い」「これが悪い」、「善心」「不善心」ということが分かるわけです。

それ以外はもう「原子力の平和はよいことだ、よいことだ」と、「もうこれほど素晴らしいことはない」と。こういう悪魔の爆弾が「人間の平和利用にできる」と。「絶対に間違いなし、これは素晴らしい人類の叡智である」と。「だから、どんどんどんどん造りましょう」と言ったわけですね。ここに落とし穴があったわけなのですよ。

原子力発電はですね、1950年代、今の日本の原子力発電を造る前に、全く安全なペブルベッド方式といって、ドイツの科学者が開発した人。アメリカが完成して、それを潰したわけ。また、トリウム発電といって自然のウラニウムから無限のエネルギーがどんどん取れるわけ。それもアメリカで開発して潰しました。ただ最も危険な「ウェスティングハウス」と「ゼネラル・エレクトリック」の、この二つは残して日本で造りました。これは原爆製造機だから、一石二鳥。プルトニウムとか原爆がすぐ造れる。他の二つの方式では原爆は造れません。

というふうに、私が不信なのは、私の友人にも数名、東京大学に行って天才だけでも、ま、話しても、彼らは専門の話でバーツと天文学とか分かるわけ。この太陽が1秒間に、この銀河の周りを300キロメートルで走っていると。ピンと来ないでしょう？ライフルでバーンと撃てば、1秒間に1.2キロメートル。1秒間に300キロメートルと言ったら、新幹線の3600倍のスピードで、私たちはダーツと太陽と一緒に動いているわけです。こうしたら、ちょっと分かりますね。その周りを私たちは1秒間に360倍の新幹線のひかりの速さで私たちは周っているわけです。微動だにしないでしょう？このことがお経に書いています。こうすれば、少し分かるでしょう？というふうに、私の言っていることは全部、本に書いてあるけれども、誰も解説しないわけです。

「如露」、突然、宇宙が発生したと。これをビッグバン理論。もう30年前に10のマイナス32乗まで縮まったということは、蟻さんの100兆分の1以下の小さいところから、全宇宙が出たわけ。地球どころじゃない、この太陽系、想像できないでしょう？「如露亦如電」、実は簡単なことなのですよ。この大宇宙も針の穴に入れられるわけ。遠くから見たら、スポット中に入ります。あなたも針の中に入ります。

だから、キリスト様が金持ちはラクダが針の穴を通るより難しい。西洋ではそれを解説しない。これは禅問答なわけです。もし金持ちが通せましたとなったら、針の穴で遠く見たら通れると。これが禅です、禅の回答。つまり、キリスト様もこういうふうに全部やっていたわけなのですよ、心を進化させるために。

ところが、「神を拝め、拝めば全てOK」と、彼はそう言っていない。シナゴグ（ユダヤ教の教会）に行って、そこで商売している卓袱台（ちゃぶだい）全部、追っ払って「ここで何をしているのか？」と。「ここは神聖なる神の瞑想の場である」と。教会とかシナゴグは、そこは全て瞑想の場です。商売するところではないのです。皆さんは「シナゴグは神に拝

むところ」と思っているでしょう？

イスラエルの私の大学の先生方が「先生、実はそこは瞑想する場所なのです。アイザック（イサク）にしる、キングデイビッド（ダビデ）にしる、それからモーゼにしる、全て瞑想。瞑想したから、そこで瞑想したことによって、その場所が聖なる場所になりました」と。だから皆さん、こうして瞑想するという事は、この場が「聖なる場所」になるわけです。

生駒山で私たちが瞑想した後、そこで護摩焚きをやったら、こんな大きな、びっくりするような蜘蛛がブワーと出て。それで終わった後、その和尚さんに「私は魔を祓いました」と。まあ夢みたいな話で、実際において、何と魔王権現という、ちゃんと碑石がそこにあって拝まれているわけ。これでは日本は潰れます。



生駒山に建つ魔王権現の碑石

数字には全て意味がある

だから、結局ちょうどそのときに御嶽山が爆発したでしょう。1ユガというのは64000年。マヤカレンダーも6400万年。6、4ということがよく使われる。御嶽山で亡くなった方には、こういうことを言って非常に失礼になるかもしれませんが、行方不明者と心配停止と死亡者の数は、みんなそれにひっくるめれば64です。数字には全て意味があります。数字という

のは生きものなのです。

だから、6 というのは 3、3 の二つ。上と下を合わせて陰陽の世界、ヤントラといいます。4 というのは四方・四角、世界を意味します。六十四、6、4 だから、この数字がたくさん出るはずですよ。不思議と、これで宇宙のこの地球も 64000 年でこうなっているわけ。時空はこうですよ、夏、冬、ただこう。でも、コマみたいに 64000 年かかって一旦、戻るわけです。一番離れたところを暗黒の時代、カリ・ユガ。それから目覚めるときに Waking up という覚、正覚の時代に入ると。

というふにヒンズーというか、実はナランダ大学が、偉大な和尚様たちが、イスラームが来たときに全部インドの民衆の中に入って、そして教えたわけ。だから、インドでは八つのヒンズーの学校があります。また仏教も八つです。その最高がサンカーラ、行。行をサンカーラ（形成作用）といいます。「受想行識」が最高に当たります。だから「観自在菩薩行深」と、サンカーラを深く、受想行識を観たと。全てつながっているのをぶつ切りにして分からなくして、「ディバイド・アンド・コンカー」(divide and conquer: 分割統治〈分裂させて征服せよ〉)。ということは「情報をみんな消していく」と。「あっても説明しない」と。

この大宇宙が「如露亦如電」のように 10 のマイナス 32 ということは、蟻さんを 100 兆分の 1 にした核よりも小さいと。このマジックで、これをパッと消したら、ああすごいでしょ？ 地球を消すどころの話ではないわけです。ということを説明しなければいけないわけなのですよ、有無。だから、この世界は極秘の世界になるから、ただ科学的にはそういう現象だと。

この地球もだんだん遅くなっているわけですね。一時は 1 年が 360 日の時代があったわけ。今は 365 日 5 時間いくらって、だんだん遅くなっているわけ。車の抵抗で、風の抵抗で、ブレーキを離せば、スーッと遅くなるでしょう？ そういうふうに遅くなっていつている。だから、360 日の時間を計算したら、42 万年という、そういう時空に入ってきます。

また、そういうことが書かれている『ニップール・タブレット』(『Nippur tablet』) というものがペルシャで発見されて、そこに 5000 年前に「私は全ての古典の文献を読めます」と。それで「ノアの方舟が起こった時代は 42 万年以上前にさかのぼります」と。ちゃんと書かれているわけです。

執着—焼石を手に持っている状態—

そういう情報は学者とか、非常に興味のある人は探し出せるけど、一般の人は探し出せません。「なぜこれが重要か」と言ったら、私たちの頭は結局、針の穴を通ることができないというふうに、もう考えさせられ、そういうふうな檻の中に入れられているわけです。だから、「まず全て投げてください」と、どの禅師でも言います。また、どの南方の偉い瞑想のお坊さんも同じことを言っています。アーチャン・チャーという方のお言葉を読めば、ほとんど全く禅と変わらないわけですよ。

いつも家庭問題で皆さん大変、苦勞して、もう頭に来るような、もうどうにもならないと。つまり、焼石を手に持っている状態であるわけですよ。それで、その焼石を離しなさいと。

そうしたら、すぐ治るから、いや離せない。これは冷えるまで、相当な時間と我慢力がなければ、冷えないわけですよ。離せば、すぐ苦しみから抜けられるわけですよ。

なぜなら、子どもでしょう、奥さんでしょう、旦那さん、お父さん。お釈迦様は「そういうものは一つもありません」と、「執着したらいけません」と言っているわけ。だから、それをポンと離しなさい。離さなくてもよいですよ、だって子ども大きくしなきゃいけないし、「どうしますか、私？」ということはないわけですよ。親鳥が卵を産んで、ずうっと抱いているでしょう？ それで子どもがかえる、それで鳥が大きくなって飛び立っていく、そこに執着しないで、やるべきことをやっけていながら、「これを私のものであり、これはこうである」ということが、焼石を手を持っているのと一緒だということ。

お釈迦様は「そういうものは一つもありません」と、これは私の家、この人は私の奥さん、この人は私の旦那さん、この人は私のいとこ、そういうものは一切ありません。そういうところに執着した場合には焼石を手を持っているのと一緒ですよ。これを「苦」と言いません、「ドゥッカ」。これは北伝、南伝、一緒なのです。言葉を換えても同じなのです。

それを私たちは近道を通して「これやればすぐ分かる」と。「そういうこともありません」と、アーチャン・チャーさんは言っているわけなのです。「時間がかかります」と、ゆっくりゆっくり水を与えて、そしてトマトの苗が育つように見守って、最後には大きなトマトの果実ができます。一瞬にしては出できません。時間はかかります、近道はありません。

体験者だけが解説できる極秘の世界

ただし、間違った方法でやれば、たどり着くことができない。確かにそうです。結局、『アビダンマッタサンガハ』で間違っただけを解説したら、それは正解できないようになっているから、間違っただけは当然ですね。さっき言ったことはどこにも書いていないでしょう？ これは体験者だけが解説できます。体験しなければ観えないから、極秘の世界ですから、顕密ではありません。ところが、皆さんは顕密でできると。その科学的な検証によってできるはずだと。

では「なぜ死火山である御嶽山が爆発したか」と。そうならば「この日本はどこにいても、いつでもそういう状態である」と。という理論になるわけ。やかんに水を入れて爆発したと、まず聞いたことがない。それを「科学的に検証する」というわけですよ。それで、結果が今の御嶽山で、非常に不幸なことに64名の方の命を落としたわけです。それで、後で対策委員をつくる、これからどうしようと、どうしますか？ いつでもこうでしょう？

津波が起こっても、何が起こっても、「科学的に信頼して信頼しろ」と言わせながら、事態が発生したら、これからはもう一回やると。学校の卒業試験で失敗したと、「や、先生もう一回」と。また失敗、また失敗、学校で「おまえ落第、出ていきなさい」と言われるよ！「もうこの学校に来ないでください」と。そうでしょう？「でも単位を下さい」と。「お前ちゃんと回答していないのに」、「いや、した、したから単位を下さい」と。

こういうことをいつも政府の方で言うわけだ。だから、消費税を上げれば、経済が潰れます。分かったことを上げる前から言っています。今度10%にする、沈没。できないことを

やろうとしているわけ。そして、皆さんに、その実態を知らせないために、そういう情報は英語でしか分からないようになっていきます。英語でそこで40年も住めば、この意味が何か分かるけど、文学的な英語を教えられたら解析できません。

シェイクスピアは解析できるでしょうけど、実際の生活用語の何を言っているか？それで世界はみんな動いていますから。アメリカだけではなく、世界はそう動いています。Indian English, Arabian English, African English, German English, English English, Welsh English, Western American English, California English, Southern English, South America Colombia English, これが英語に住んだ人だけが分かるわけ。

というふうに、それすら英語の先生が分からないと思う。だから、私の同期が英語の先生いっぱいいるけれど、何回、故郷を訪ねても、この人たちは出てこない。他のサブジェクトは出てくる、怖いわけです。実は「知っていないで教えています」ということ。

だから、仏教も先生が本当に知ったならば、結局、この地球は1秒間に太陽と一緒に銀河の周りを新幹線の3600倍のスピードで走っていますよと、ピンと来るけど、この大宇宙は蟻さんの100兆分の1に想像もできない小さいところから発生しました、ということにすれば、皆さんよく分かるでしょう。ということは教えない、ナンバーだけ。

結局、仏教も同じようで、こういうふうにナンバーだけバツバツバツと『アビダンマッタサンガハ』。結局、経典から経典を移し替えるから、嘘ではないけれど、これを何するか解説しないわけ。お坊さんが解説しないのに、分からないのに、一般の人がそういう本を持って、全て科学的に解説するということはあり得ないことでしょうか？先生が分からないのに、生徒が全部分かったら、学校に行く必要はないわけです。学校に行かないで、学校を卒業できるわけです。ということが現状なわけ。

「顕密、秘極」の中で、これを見つめる、「照」、当ててみる、その光というか、「心の光」を発生させるのは「慈悲の心」がなければ、これはうまく「月輪」とか「禅相」とか「ニミッタ」は非常に発生しにくく、またすぐ消えます。

つまりメッタ (mettā)、愛、マイトレーヤ (metteyya)、サンスクリットでマイトレーヤ、愛、弥勒仏陀。まず人につくしなさい、嘘をつかないで憂いなく、真面目に生きていけば、今、ここで法をしっかり持たなくても、愛ということだけの実践にしても、マイトレーヤ、弥勒仏陀の世界に行って悟り、そこで涅槃に行きますから。

では「浄土はどうなのか？」と。浄土、観音様が阿弥陀様をいつもここに捧げています。阿弥陀様は慈悲の上に乗っておられるわけですね。観音様はカルナー、慈悲。つまり、心はメッタ (慈)、カルナー (悲)、ムディター (喜)、ウペッカ (捨)、分りやすい言葉で言えば、愛、慈悲、歓喜、静寂の、この四つの心が一つになって心というスペースを造っています。だから、この土台をしっかりしなければ、心がいつでも、ふらふらふらふらするわけですね。それで、この家の中に五つのスペースがまた入り込んで、私が存在しているわけです。見る、聞く、匂い、味、触る、五つのドアによって、私たちが存在して、あなたが私を見えるでしょ。心の中で見て、そういうホログラムというか、3Dの世界に映しているから、見えるのですよ。実は、心の中で再現しているわけです。

ただ、すばらしいことは、3DTVとか、だんだん近づいているから、仏教を説明し易いわけ。

コンピュータのプログラムも、ちょうどナーマ（名）、受想行識、サンカーラ（行、形成作用）と言います。34（三十四善心）を分かりやすく言えば、今、16bit とか 32bit とか 64bit とかありますでしょ、そういうふうに、例えば、その受想行識という 34 の、そういう bit が組み合わさって、一回りすれば、これはウイルスのないプログラムになります。作用がすばらしく善くなります。

ところが、ウイルスが入った場合には、ぶつつり切れて 18、21 とか、つまり邪な心、怒り、盗み、やきもち、人と喧嘩する、これが 34 にいかずにぶち切れるわけです。つまり、コンピュータが作動しなくなるということ。それで、このウイルスを取るそのプログラムを「法」と言っ、サッと、このウイルスを取って清浄になります。この清浄になった場合には、間違っ、たウイルスが入った、この心が間違っ、て解析して、自分の体が病気になったり、コンピュータが知らない間に外から入った病気でも入れられるでしょ、それも取り去る、これが「瞑想の法」なわけです。

つまり、熱い鉄の棒に、プラチナム（白金）とか金とか銀とかサッと通せば、サッと通すことによって、きれいになるわけです。つまり、コンピュータのウイルスを取るような状態です。それを瞑想で同じ法を得ると。だから、完全に金ぴかになった状態が涅槃に行ってしまう。「一切の垢付かず」ということです。それは皆さんが今している、こういうふうな瞑想によります。

そういうものがあると聞くのを「説法を聞く」ということです。それで、そういうことがどうかと、説法を聞くことをパリヤッティ (pariyatti)¹ といいます。今度、本当にどうかと、勉強して解析しようとするところが、結局、文献研究とか、南伝ではパティパッティ (patipatti) といいます。それが本当にそうか、どうかということは、もう数字とか、全部、解析できない世界をパティヴェーダ (pativedha) と、瞑想でやります。

有名な湯川秀樹さんが、いくら数字とか文献でも分からなかったわけですよ。講演会で一回、会ったことがあります。どうしてそれが分かったかと言え、その中性子と一切の文献がなくて、ただお風呂に入った後、「これだ！」と閃いたと。これが結局、文献学では分からないわけです。結局、こう寝ながら瞑想状態にあったわけですね。

アルキメデスの重量と質量、重量と体積あるでしょ。あれも自分がお風呂に入って、パッと分かったわけ。この世界はもう頭密、解析では無理です。実態の体で体験して分かることなのです。だから「気づき」ということは、ここのエリア。ここではなく、頭ではなく、体での気づき。

禅の極意は、六祖大師（慧能大師）様の極意で、ほとんど偉い方は、頭か体を一回たたかれるのですよ。ちょうど慧可さんがパッと切った腕、そういう状態を起こすわけです。それも普通の人は殴らない。ダーッともう究極の究極の究極でバーンと割れるくらいたたいたときに、バーンと分かるわけです。

だから、その昔、通度寺のお寺を訪ねたときに、全部お坊さんがバーンとキレたりしてい

¹ pariyatti（信、解—信じて話を理解する）：説法を聞くこと。

patipatti（修—文献を研究する）：お経を読んで考えること。

pativedha（證—瞑想で悟る）：瞑想で体得すること。

たわけですよ。普通は怒って辞めるでしょ。中国の禪師の話でもバーンとたたかれたら、「アハハハ」と笑ったわけ、「自分がこれだけ馬鹿だった」と。怒りと一瞬に分かった、それで悟った。それでバーンと打ち返したら、相手も「アハハハハ」と笑ったわけ、「ああ分かった」と。お互いにニコニコしているわけ。普通は「なんで殴るんだー」と大喧嘩です。

これは究極の状態においてしかしません。もうこの顕密の世界で抜け切れないところをバーンと、ちょうど卵の殻から出られないわけですよ。卵は卵でこう向いているわけ、チッチッチと。お互いに分かるわけですよ。どうしても出ない場合は、外から卵を割ってやるわけ。ワニさんがね、こう温めて出てこないでしょ。お母さんが掘り返しているわけ。それで、卵を加えてゆっくりゆっくりかじって、殻を割って、そこからポーッとワニさんを出してやるわけ。このことなのですよ。お母さんがお腹に入れて、どうしても出ないときは仕方なく腹を切って出すと、そのことです。

というふうに、とっても大切な叡智という、子どもを産むには、これほど苦勞して産まなければいけないわけなのです。だから、ここにはお母さんもない、お父さんもない、子どももない、親族もない、国もない、ただあるがまま。そうであれば、焼け石を手を持ったように、戦争しか起こりません。

ということをアショーカ大王が分かって「やめましょう」と。大戦争で60万人という兵隊を殺したわけなのです。大変な苦しみを受けて、そのときに高僧に出遇って、悟ったわけですね。だから、全世界に彼は仏教のミッシヨナリー (missionary : 伝道師、ダンマを伝える) を派遣するわけです。アフガニスタンからローマからブルガリアからエジプト、文献では、今から1600年前にはカリフォルニアに中国のお坊さんが渡って説法しているわけです。エクアドルには中国から来ているわけです。

だから、日本、ジパングという国は、唐土 (中国) の国を渡って南に南下、それから6カ月、南下して到達します。エクアドルが黄金の国なわけ。金がゴロゴロしている。今でも金があります。それを「裸の黒い国」と言っています。ちゃんと書かれています。コロンブスの世界地図以前にもうあるわけです。

だから、メキシコのアズテックは1000年前に東洋から皆、貿易で来たが、突然、来なくなった。その後、コロンブスが来て西洋の船が来始めた。だから、カリフォルニアのサンディエゴ沖には、今でも中国の船の碇 (いかり)、石の碇がゴロゴロしているわけです。なぜそれが分かったかと言ったら、石に穴が空いている碇みたいなものがあるわけです。それは現在でも使われると思います。それで、それを分析したら、中国でできた石なわけです。

というふうに、私たちはもうセッティングされた教育でやられているものだから、ちょうど籠の鳥みたいなものです。そこでいくら暴れても出られないわけです。一番善いのは「籠の鳥だから、死んだふりをしなさい」と、達磨大師様が言ったわけです。そうしたら、主人が来てびっくりして「どうしたのか」と、手に取って、取ったときに、ワァッと手を離したとき、飛んでいけばいいわけ。智慧を使いなさい、ドアが開きます。いくらわめいてダッダッダとやったってドアは開きません。というふうな因縁を造りなさい、と言った。

「因縁の力」というのはすごいもので、結局、達磨大師様がインドから来て去っていくときに3人に法を与えた。それで、最後の方は比丘尼で「尼総持」とかいう名前です、この人は、

その昔、前世で達磨大師様が説法したら死んだのです。口から紫の蓮の華を出して死んでいったわけです。それで、最後に中国からインドに帰るときに「お前は、実は私の説法を聞いて、口から紫の蓮の華を出して死んでいったのだよ」と言った。それで、この人に法の肉を与えて「髓・骨・肉」、これでできるでしょ。それで、心は彼がいつでもホールドしている。

だから、六祖大師のときに四川省のお方が彼のところで学んで、その六祖大師が金のお釈迦様の衣を洗っているときに、それが「代を継いだ」という証なのです。「今、達磨大師様から、あなたのところにお使いに来て奉仕に来ました、お仕えのためにきました」と、見ているわけです。それから 250 年、ちょうど先ほど本が新聞に書かれた宋代の時代ですね。死んではないわけでは

なぜ、こういう夢物語のようなことを言うかと言えば、私が 2012 年にバガンという密教の大聖地だったのですが、実はミャンマーは密教がものすごく栄えた国だったわけです。今はテラワダです。だから、全てそこのお寺は密教造りなのです。東西南北の仏ですね。阿闍如来、宝生如来、阿弥陀如来、不空成就如来。それで中が見えないようになって、真ん中が柱になって大日如来。というふうに、密教も大乘もテラワダも一体になっているわけですよ。





バガンの大乘思想の壁画



バガンの浄土思想の壁画

それでカルマの因縁で、こうして善いことを続けさせようということで、私は旅を続けさせてもらって、結局、生駒山の山頂で皆さんやったら「私、悪魔を祓いましたよ」と。そうしたら、悪魔権現、魔王権現の遺跡（11 頁参照）があったわけ。

その数字が 64。「世界、新しい世界が始まります」というメッセージ。この方々が死んでいない。善いことをすれば、すぐに転生します。無駄死にはではないのです。私たちには無駄死にみえるということです。そうではないはずで。何をしたかによって無駄死になります。

もう何兆億円、何千億円、何百兆億円と貯めて、貯めて、「世界制覇」と言って、している方たちがいるみたいですが、レストランで 1 日 100 万円使えませんよ。一生かかっても 1 兆円使えませんよ。1000 年生きて、そのお金をあの世に持っていけないのですよ。何のためにこれをしているのかと。一カ所に全ての力を集めて、この地球の果てでは食べられないで死んでいく人がいっぱいいるわけなのですよ。もし、この人に「慈悲の心」があれば、あり得ないことです。「人はどうでもいい」「自分だけ栄華」「私が王様だ」となったら、武帝みたいなことになるわけなのです。

だから、「法を得る」ということは、それ以上のことで、特に皆さんが合宿でも、ここでも『ニミッタ』『月輪』『禅相』を観た 1 日は 100 年生きるよりも、これがそれ以上の価値があります」と言っています。一生それに出遇えないで、これから億千万劫、何遭遇、一劫が 42 億年か 56 億年か誰も解説していないけれど、想像を絶する一千万億劫年、何遭遇という想像を絶するくらい苦勞して、お釈迦様がこうして持ってきた法なわけです。

だから、「日本、この仏国に生まれた方は幸せですよ」と。そういう文献で分からなくても、最初の部分があるという因縁ができた。特に皆さんはこうして「本当に知りたい」ということで、私みたいな風に吹っ飛ばすようなお坊さんのお話を聞いてくれたという、こういう因縁という、偉大な法の先生方の過去によって、私ではなく、私は風に吹かれて、こうして来ましたが、こういう先生方のお話、体験を皆さんと分かち合えるという幸せをもらっています。

そういうことで、皆さんが、これからは一方方向の話ではなく、皆さんとの問答のうえで回答できれば、もっと幸せです。昨日はたくさん問答して、結局、私の言ったこと、「そういう文献はあるのか」と、新聞に次の日サーッと出てくるわけです。ということは結局、自分の大事なものをどっかに置き忘れて、どこかにサーッと、確かにあそこにあると、あーそうかなと、それで「あ！あった」と安心するということを見せなさい、ということで、私が言っているわけです。ということは私の力ではないわけです。その質問が出てきて、次の日に明快に「こういうものが存在します」と、新聞（『京都新聞』「名品手帳」2014年10月5日付、朝刊、第17版、第1面）に書いているわけです。

「これであなたたちは納得するでしょう」と、「勉強してください」という法の方で、これが出てきているわけです。その質問が出て、その翌日にちゃんと出てくるわけです。この一番にニミッタということも書いています、新聞を見てください。というふうに、偉大なそういう先生方が、いつでも確保してくれます。というのは「一心に法を学ぶ者には、永遠の幸せを与えてくれようとしている」わけです。

行かれた方に失礼ですが、怒られるかもわからないけれど、今、あなたたちが100千万億の億万長者で山に上がってドーンと爆発したところへ行ってみて、では、何の意味があってそれだけの富を貯めて。失礼かもしれませんが、そういう一日よりは、こういうふうに皆さんで仲良く「法とは何か」と。こっちはね、宇宙の宝よりもすごい宝をあなたたちはもっている。

『法華経』にある火宅が今、焼かれている、出ておいでなさい、あなた方は出てきているわけですよ。だから「浄土に往（い）く方法もあるし、涅槃に行く方法もあるし、そういう方法がたくさんありますよ」というお釈迦様の温かい温かい愛の世界に私たちは導かれているわけなのです。

だから、キリスト様も「愛、愛、愛」と言ったのが仏教、その昔、シャンカールゴンパ (Shakar Gompa)¹、ラダック、レーのお寺で学んで、そして中近東には「もはや『目には目を歯には歯を』ではないのです」と。「愛によってだけ、この牢獄から抜け出すことができます」と。

だから、私が昔、読んだ経典は禅問答ですよ。ただ学術的にはありますが、そういうものが一切、紹介されていません。教会としては、それは発表できません。教会としてはキング・ジェームズ・バージョンの400年前に作られた聖書、バイブルで納得させていますけれども、

¹ レー（インド北部、ラダック地方最大の中心都市）郊外の山側へ約2kmほど行った場所にあり、ゴンパ (Gompa) とはチベット仏教で「僧院」のことを指す。現在、イエス・キリストの時代とは全く様式が異なるが、20世紀初頭にバクラ・リンポチェ18世が建てた小さいゲルク派のゴンパがあり、この裏で修行したといわれている。

この中で回答は全部できません。「自分で探さない」と、これは無理な話。先生方が解説してイエス様の位に上げて、そこまで悟り開かせなければいけないわけです。そうでなければ、永遠に救われません。「Salvation、救世」、その前、お釈迦様の前までは「救世」はなかったわけです。「Salvation、救われる、救い」という教えは一つもなかったわけです。

というふうな全能の神でもできない、そういうことをお釈迦様の法、「一切有為法、如夢幻泡影、如露亦如電、応作如是観」と、お釈迦様が「この中に全てが収まっている」と。「これを解析しないでは、どこにもいけませんよ」と。だから、瞑想していけば、自分の体を通して体得、気づきます。それを思考、結局、考えて科学的分析とか、そういうことではなく、畑を耕してもいいし、家を直してもいいし、料理を作ってもいいし、そういう中に回答がありますよ。何も難しい、難しい文献の中に探さなくても、実に簡単などころにありますよ、ということをお教えているわけです。



ミャンマーのバガンにて

質疑応答

法とは愛をいかにしてつかむか

【司会者】

長くなりましたが、そろそろ質疑応答で。何かリクエストとか、お話ししていただきたいことがあれば、おっしゃってください。質問などでもいいですので、ご遠慮なくおっしゃってください。

【水源師】

もし、何か紙に書かれた質問があれば、それでも。一方的に言うのもなんだから、分からないこと、恥ずかしがらないで、おかしいと思ったことは、遠慮なしにどんどん質問してください。何かありますか？ お坊ちゃん何かありますか（笑）？ 何、聞いてもいいですよ。

【参加者】

個人的な質問になってしまうのですが、自分は8年くらい前にゴエンカ氏のヴィパッサナー（観）でやっているのですけれども、ただ、今、子どもと妻がいまして、定年退職してから出家したいなと思っていまして、出家するまでに何か準備というか、こういうことをやっておけば、ということがあれば、教えていただきたいのですが。

【水源師】

私の場合は結局、退職してから世界を回って、犬も歩けば棒に当たるで、こういうふうになったのだけれど、その前、私は印幻先生とか、ダライ・ラマさんから、指南を受けていて、ただ一番大切なのは、頭を空っぽにして、その丹田というか、それをただただ続けていって、それで、印幻先生からは五つの本、この中をよく読みなさいと。私はあんまり勉強が好きではないので、適当にやって、ただ丹田禅をずうっとやっていました。それで、そういうふうにしてやって、今度はダンマヌパッサナー（法随観）の方式でパオに出遇って行って、その教科がありますから、スーッと行っただけです。

一番大切なことは「いつでも人をいじめないで、優しく」というその方向で、「愛の世界」でそれを進めていけば、家庭もうまくいくし、それから、それでもなかなか焼け石を持っているみたいで「自分の子ども」と、こう思ったときに焼き石になりますからね。ただ、一生懸命やることはやらなければいけないけれど、そういうふうな「自分のもの」という執着心があれば、なかなかうまくいかないから、でも全てやることはやらなければいけない。その後で、それをやりながら時間を見つけて。

私は飲み会とか、そういう会があんまり好きではないのですね。表面的なことであって、行っても苦痛なのですよ。本当に心から話し合って楽しむはいいのだけれど、そういう人はめったに出会えないし、結局お酒飲むのも自分一人で静かに。一番楽しかったのは、結局、自分が一番嫌だった瞑想が一番好きになって、それで真夜中の2時から始めて朝の5時ま

で、そのときは皆、深々と眠っているから、まー楽しく静かに二禅か一禅でいくときもあれば、二禅でいくときもあれば、そのあとヨガの体操をして寝る。そのサイクルを壊されるのが一番嫌だったのですが、もうそれは我慢して、そのときはして、また戻すと、この繰り返しです。そうして何とかここまでこうして来ました。

私は出家する気はなくて、修行したときに「いやあ、お坊さんが苦しんでいるのに、私がスイスイ行ったら、この方たちを馬鹿にするみたいなことになるんじゃないか」と思って、それで、この衣を着たわけです。それで、これを着たら脱げなくなっちゃってね。「出たら、すぐ脱ごう」と思っていたわけ。「こんな難しい法は教えられない」と思って、ところが、いまだにこれが脱げないわけです。

だから、全て今ずうっと見たら、やっぱり「因縁」なんですね。「因縁の力」でこうなって、どうしてもこれを着なければ、護摩行もできなかつたし、神武天皇の三種の神器を受けたところで、今とても大切なときに、この魔を追い払うこともできなかつたわけですね。

というふうに、人間界の目を見たことと天界の神々がやらせることは、ちょっと違うわけです。なぜ、富士山のコノハナノサクヤビメ（木花咲耶姫）様が、パーッと出てきたかと、日本中の萬（よろず）の神々がワーッと出てきたわけです。「富士山の水がめのように水を置いてください」と。それで、水を皆さんと飲んで「こんなすばらしい水はない」と思って「水がめを置いてください」と。



木花咲耶姫様のご神託によって置かれた「水と水がめ」

(2013年10月14日 忍野合宿)

生駒山でスーッとやったら、御嶽山の水がブォーンと、それで「私は悪魔を祓いました」と言ったら、私は知らなかったけれども、「魔王権現、悪魔を取り払いましたよ」と、そういうふうになるわけです（11 頁参照）。

そこには、やはり「愛の心」で生きて、真面目に、正直に生きれば、たとえ行がうまくいなくても、必ずや弥勒仏に出会うという鍵をもらいます。弥勒というのはマイトレーヤ、愛、愛仏陀というのが出てくる、愛の仏陀。そうでなければ、観音様の慈悲の力で浄土に往くのもよし。

この大世界には四つの浄土があります。東西南北どこに往っても涅槃の世界に行けます。そこにたどり着けば浄土。だから、私たちは阿弥陀の国に向かえば、間違いないし、最初、それが観えなかったときはもう大ショックで「こんなこと絶対あり得ない」と、十万億土の宇宙の彼方という十万億土、10 兆の宇宙の彼方にあるということです¹。「一つの宇宙でも大変なのに」ということが分かったわけ。だから、観音様の力で連れていってもらったわけ。

5次元の世界になれば、そういうものは10兆でも100兆でも関係ないわけです。宇宙がすっぽりと小さいルーパ（微粒子）に入ってしまうから。サーッと一瞬ですよ。100兆でも10兆の宇宙でも、この一握りの中に入ってしまう。それを「不可思議解脱法門」といいますね。『維摩経』に書いてあります。

だから、富士山で合宿したときに木花咲耶姫様がサーッと降りてきて、日本中の萬の神々がサーッと来たわけです。中が大きくて外が小さい、ドラえもんの四次元ポケット、何でも出てくるでしょ、そのこと。それが5次元の世界です、と言ったら、分かりやすいでしょ。ドラえもんではいくらでも出てくるわけでしょう。だから、気楽にぼちぼちとゆっくりするときはゆっくりして、それで丹田でゆっくりやっていけば、善い縁が善い縁につながって、どんどん善い方向に行きます。それが悪い縁でつながっていけば、悪い縁につながっていきますからね。

ということは、正しい法を求めようとすれば、「どこどこの村の、その家にたどり着きたい」という正しい情報をもらえば、そこにたどり着きますけれども、そういう情報をもらわないときは、誰も教えてくれないから、あっちにクルクル、こっちにクルクル行くわけです。また、その中にたどり着くには、自分で歩かなければいけないわけです。楽しんでドーンと乗れば、いつまでもそこに行かないで「いつも楽だ、楽だ」と、とんでもないところに行ってしまう。自分の足で苦労して、そこに行かなければいけない。

楽しんで大きい船に乗って「あー連れていってもらおう」と、「私は浄土に往きたい」と、「押んでもらおう」と、「そこで往ける」と。それはいいですよ、それはいいですよ、そういう考えでも、往ければ。でも、船代として、心からの、人々に対しての奉仕の実績が必要と思います。ところが、この船がそこに行かなければどうしますか。とんでもないところにスーッと行って「いやーすみません、実は～あの～どこか分かりません」と、船長さんがそう言え

¹『無量寿経』には「法蔵菩薩、いますでに成仏して、現に西方にまします。ここを去ること十万億刹なり。その仏の世界をば名づけて安樂といふ」、『阿弥陀経』にも「これより西方に、十万億の仏土を過ぎて世界あり、名づけて極樂といふ。その土に仏まします、阿弥陀と号す。いま現にましまして法を説きたまふ」と説かれている。

ば、どうしますか。ということが、今でも往々にしてありますね。

マレーシアの二つの飛行機の話は、いまだに誰も何も言わない。突然、太平洋の中に沈んだのか、もう一つはボンと撃たれたのか、一切、何も言わない。それが「テロだ、テロだ、テロだ」と言って、体を調べても回答なし。でも、私たちは飛行機を見て「はい、調べてください」。ここは何かおかしいと思いますね。当然その飛行機会社とか、国とか、世界の政府は、特に旅客機だから、この事態を解明しなければいけないでしょ。あと何にもなし、新聞もなし、という現状でありますから、全ては自分、いつ死んでもいいように、どんなことがあってもいいように「法に向かって生きていく」と。

「法とは愛をいかにしてつかむか」と、この一言に尽きます。難しいですよ。「愛の塊」というのは「ブダダのもの」で、宇宙に銀河の恒河沙のようにあります。でも、遠いところにあるのですけれども、さっき言ったように「ラクダが針の穴を通れば出会えます」という公案をあなたたちに与えます。

虎の巻を見せても、自分でやらなければ意味ないから。聞いておしまい、書いておしまい、ある偉いお坊さんが経典に書いて、私が「経典に書いてありますよ」と。体験して初めて経典に書かれているから、経典に書かれてあることが、ここで「私は分かった」と、それは分かったことにはなっていないわけですよ。体験を経典に書きます。

学者様も実験して、そうして見聞して研究して、それを本にするわけです。それが実際に「そうかな」ということは、フィールドリサーチで実際にそこに行って、確かめて「これが正解です」となるわけです。ということをお釈迦様が「そうしてください」と言われているわけです。

有り難うございます。こうして話が続けられますから、やはり問答がなければ、なかなか一方通行ではうまくいかないの、何でもつまらない意見というのは一つもないですから、何でも聞いてください。遠慮なしにお願いします。

神について

【参加者】

日本には、昔から神さん、日本の神々の中で仏教があるのだと思うのですが、仏と神とのつながりというか、日本を守られている神を仏教ではどう捉えているか。

【水源師】

インドにも神さんがいます。ネパールにも神さんがいます。北アメリカ、南アメリカ、ロシア、全世界。それはね、死んだ方が、心が非常に高德な方が神位となって、権化となって、人を守るということで、神の位に上がります。できるだけ平穏無事にと。神の世界であっても「これが私」「それはあなたの国」と、神同士で喧嘩します。それが有名なトロイア戦争。アテナとトロイアの大戦争が起こったわけですね。結局、神であっても人間と変わらないわけです、いくら超能力があっても。

つまり、アメリカでは今、原子力空母 12 隻。南の小さい島の現代文明より離れた人々が、

巨船を見たことがない人が、ジェット戦闘機がパァッと来たら、「まあ、神が来た」と思うでしょうね。でも、同じ人間なのですよ。そこで、怒り、貪り、一緒。ただ、その高德な方々だから、人間界よりは進化しているわけ。神は神でも大神様とか、いろんな宇宙の神様があります。

だから、「エホバの神」という聖書の神は「私はとてもやきもち深い神です。私以外の神を拝まないでください。もしそうしたら、私はやきもちで怒り狂って、天罰を与えます」と。つまり、私が全てあなたたちを創ったのに、なぜ他の神を拝むのかと。では「私の神と他の神は、どうしてこれが発生したのか」ということを誰も言わない。つまり、あなた方が「神」と言う方、「権化」とか「神」とか言うのは、実は人間として生まれて進化した方が、幽霊になるか、鬼になるか、進化して神の位に上がって善いことをするか、それを神というわけ。

だから、その土地で亡くなった、すばらしい高德な方は死んでも、「そうか、村の人はみんな幸せになっているかな？」と、いつでも見ているわけです。それで、善いことばかり起こるから、神社が出て、お祭もするし、そうしたら、神様が喜んで、ますます善いことをしてくれるわけですよ。

なぜ、南伝のお寺では、お月様の満月のときにお寺にお供えするかと言うと、それが最高の荣誉でね。スリランカの最高のお寺、あの仏牙舎利のお寺がキャンディにあります。その5000人のお坊さんを養うには、最高の食べ物を36種類選んで、そしてお供えします。そうすることによって「自分のお父さん、お母さん、先祖が善い処に行きますように。いい思いしますように」と。私がパオにいたとき、そのときは1200人のお坊さんに、今は1600人、朝と昼2回全部、私がお金を払って、これはお父さんとお母さんの供養のために、お坊さん方にお供えしたわけ。私は比丘だから、私の名前を出せませんけど。カナダの私の家族の名前を出して「供養した」という張り紙が出ます。

だから、死んだ後は「何もない、仏もない、何もない、供養もいらない」と、南伝のテラワダでも、葬式があれば、すぐにお坊さんが行かなければいけない。拝んであげて、食べ物を食べてあげなければいけない。それによって、その死んだ方の霊（餓鬼）が悪い処に行かないように。神と混同されているそこがちょっと理解できないと思います。神の生命体になれば1日が50年。だから、10日は500年、1年365日×50年。すごく長い4千年以上の生命体になるでしょ。だからそういうふうにな、それ×100年としたら、4万年、5万年と。だから長い生命体であっても、「法に触れること」はないわけ。

お釈迦様が無量の時間、億千万劫、何遭遇というということで「あの山を見てください。私の首はあれだけ落として、ここに来ました。天の星を見てください。あれだけ私は目をくり抜かれました」と、そう簡単に法は手に入らないわけですよ。

揚子江にダムを造ることで、あるお寺が沈んでいくわけですよ。そこには山を切り砕いて、一つの大きな弥勒仏陀が座っているわけですよ。人間はこの爪の上にちゃんと乗る、ちっちゃい、これくらい、これくらい巨大な山を切って。それは「そこで人の命を落とさないように」という、お坊さんがコツコツと造ったわけ。そのときに、その長官に「どうか助けてください。一人ではでき上がらないから、どうかその地方の長官様の力で、これを完成させてくれませんか。一緒に死ぬ前に完成してほしいのです」ということをお願いしたわけだ。

では、その長官はやる気もないし、財政もないし、「よし！」と、冗談に「お前、自分の目をくり抜いてみなさい。そうしたら造ってあげましょう」と、ポーンと抜いたわけ。それを見てびっくりして、それでその巨大な山の仏陀ができたわけ。

確かシャーリプトラ（舍利弗）さんでしたかね。バラモンが来て「お前は何でも与えるんだろ、お前の目が欲しい」と、バーンと抜いたわけです。これはサドゥーといってね、全て捨てる、捨てる、捨てる。言われて欲しいものは、何でもあげるとのことなのです。

だから、最後にお釈迦様が成仏する人間界で生まれたときに、子どものトラの命を助けるために、自分の腕から血を流して、トラのお母さんにそれを舐めさせて、全部食べさせて、この5匹のトラさんを生かしたわけです。それで天界にすぐ上がって行きました。この5匹のトラさんが最初にサールナート（鹿野苑）で説法した行者の仲間なわけなのです。それをやるかやらないかによって、法は伝わらないわけ。ということくらい、法を持ってくるということは、大変なことなわけです。ただ「愛だ、愛だ、愛だ」と言ったって、そうどこまで深い愛なのか。本当にそれを実践して、そうなるのか。

「法を伝える」というのは、恒河沙（ごうがしや）あるでしょ、60兆です。「恒河沙の砂くらい全身供養しても、その法は得られませんよ」ということが、『般若心経』の中に書いてあるのです。ここです、「老死もなく、また老死の尽きることもなし」、ここです。漢文でいけばこうですね、「無老死、亦無老死尽」（むろうしやくむろうしじん）。ということは「恒河沙の砂くらい全身供養しても、生命の尽きることなくしても、この法は得られません」と。

神であっても、生命体があって、第四天界（兜率天、都率天、覩史多天）に行けば、大体5億7600万年で生命体が終わります、弥勒菩薩様が修行されている兜率天（とそつてん）に行っても。そこは一日400年、人間の値にして。そういう長く生きたって、法に出遇えることは、とても難しいですよ。

だから、お釈迦様が説法したときに、ワァーッと神々が聞きに来たわけです。お釈迦様が正覚したときに「この法は教えられない」と。特にアビダンマはとっても難しく。そうしたら、第二天界（忉利天、三十三天）のサッカ大王が来て「どうか、そういうふうにならずに、涅槃に行かないで教えてください」と言って、ここにとどまったわけなのです。だから今、「神、神」と喧伝されていますけれども、実は、どの神でも一時、人間だったわけなのです。

イスラームのアラーにしても「私の三人の娘はどこにいるか」と。神が子どもをつくるわけがないですよ。そう言ったおかげで、そういうことを書いた学者が首に懸賞金をかけられて、今でも逃げ回っている。その一節を抜き去りましたね。つまり、神を冒瀆したものであると。でも、コーラン（クルアーン）に書いてあるわけです。なぜかといったら、そのメッカは三人の女神がまつられている、とても予言の当たるところで、太古の昔から、みんながそこにお参りに行くわけです。

これはエジプト文明から、ユダヤ教のとき、クリスチャンのとき、その後もずっと続いたわけです。だから、それを「ブラックストーン」というわけです。幕に囲まれた、あれは石のお寺。でも、雨に当たったら、崩れるわけです。なぜかといったら、雨が降らないからね、土を固めて硬くして造ってあるから。というふうは一切、幕張って見せないわけ。幕張とか

なんとか言って。それは英語で「cover up (カバーアップ)」と言います。

だから、結局、もちろんそういう偉い方は偉い方で人によくするし、尽くすし、NGO で命を懸け、そうやって尊いこと、その尊いことによって位が上がる、それは確か。それは神の位になるわけですね。だから、皇帝シーザーは「私は神である」と。だから、ジュリアス・シーザー (Julius Caesar) は7月に生まれたので「July」と名付けて、その月の30日に1日足して31日としました。そのあとは「August」(8月)。オーガスティス (Augustus) の皇帝が「私もジュリアス・シーザーと一緒に力を持っているから、当然、私の月もつくる」と。つまり「神である」と。「時間も私が持つ」と。

September (9月)、October (10月)、November (11月)、December (12月) は、なかったわけ。1月から8月まであって、9、10、11、12は時間がないわけ、ゼロ。そのときは休閑期で「遊びなさい」と。だから、そこで、その後の皇帝はできないわけです、その後ないから。それで、後で9月、10月、11月、12月ができたわけ。つまり「自分は神であるから、何でもできる」ということ。だから、皇帝の命令は神であるからね、絶対的なもの。というふうに混同してしまっているわけですね。

また、見えない霊界の偉い権化様も神の位に上がっていきますね、神社を作って。混同しているのは、そのことだと思いますよ。その上のまた神もあるし、またその上の神もあるし、では、どこの神のことかと。

ただ、仏教のお釈迦様が伝えた法は、その前のカッサパ仏陀 (迦葉仏)、コーナガマナ仏陀 (俱那含仏)、カクサンダ仏陀 (拘楼孫仏) と、ずうっとディーパンカラ仏陀 (燃燈仏) の大燈明仏陀。その前の日月燈明仏と、二万の日月燈明仏が続いて、どこまでも行くわけですよ。

でも、その間が、地球が発生消滅した後でも出てくると。でも、花が咲く季節は春・夏・秋・冬と決まって、この花はただこの夏にしか咲きませんよと。今がこの花が咲いている、仏法の咲いている時間帯で、これを逃がせば、秋では見えません。冬も見えませんが。春も見えない。また、この法の華は特別なところにだけ咲く華であって。ただ、この華に出遇ったということは、とてもすごいことなわけです。だから、咲く時期に出遇っているわけです。でも、花もね、ここで咲き、また枯れて、ここで咲くと、インドからずうっとまだ細々と咲いているわけです。だから、神々もこれを喜んで聞きに来るわけです。

神々の世界に行ったら、勉強しなくてもいい、全て楽しい、何にもしなくても、宮殿に住んで全て整えられているから。そうしたらね、自由自在だから、勉強することないわけ。修行することもないわけです。法を学ぶこともないわけです。ただし、時間が来れば、生命体はおしまい。そのときに大変なパニックに陥るわけです。

なぜかといったら、そういうふうに「楽しい、楽しい」って遊んでいっていたら、天界に生まれた人は地獄界に直通で落ちていく方もいらっしゃるようです、大変なことです。ツケが来るわけ。ツケのないことはないわけ。だから、皆さんが人間界に生まれて「地獄界だ」と言うけれども、もし、この法に出遇って少しでも進化したら、天界よりもすばらしいことになります。この短い人生の時間で、普通は人間界でも2万年、3万年、10万年とね、もう10年以上超えたら、法に出遇うことはないわけです、100万年の生命体、1000万年の生命体になったら。夢みたいな話でしょ。

いかに私たちは針の穴の中で生活しているか

ところが、アメリカのカリフォルニアの空軍の研究所では、このDNAを2億7000万年まで追跡しているわけ。アフリカの近郊の鉱山では2億8000万年の、この人骨が出てきているわけ、その地層から、岩の中から。人工的に埋め込めません。だから、そういうふうなこともわきまえて「この仏法とは、それ以上を超えるものである」と。あの栄華を誇ったアトランティスも沈みました。

ところが、つい近年、日本の地質学者が潜水艦を持って行って、花崗岩の巨大な海中の島を発見したわけです。花崗岩というのは、空中に上がってだけできる石なのです。水中ではできない。だから、大陸のようなものが過去にあったということです。サンパウロの1000キロ沖にあるのです。それは前から「アトランティスがあった」と言われた。プラトンがそのことを言っていました。プラトンが言うくらいだったから「嘘ではないだろう」と。でも、ないから半信半疑で。それを何と日本の地質学者が潜水艦で行って、花崗岩の巨大な岩の崖が海中にあると、900m下にあった。

というふうに、私たちは全て空想で「何もない、ない、ない」と、ここに私たちが教えられた「この新聞だけ」と。新聞（『京都新聞』）でも読めないわけでしょう、このヴィパサナー（観）があるということは。何を意味しているかも分からないでしょう。体験すれば、すぐ「これだ」と分かる。嘘も隠しもしていないわけです。

だから、誰も言わないから、こういうものを捨てていくわけ、みんな。あー誰も読まない。それで、無明の時代だから、私たちが今、「そのニミッタというのが経典に書いてありますか？」と。だから、とっっても小さい針の穴の目でしか生活しないわけですよ。その中でしか、生活しないわけ。そのツケが大きいわけです。

福島原発も起こるべくして起こるところに造られたわけです。起こらないのが摩訶不思議なところに造ったわけです。そして、この設計は必ずや大惨事を起こすような設計なわけなのです。TPPも今、言われているけれども、誰も内容を読んだことは一人もないわけです。発表されている貿易協定は、たったの5項目。24項目は全く規制とか、法律とか、そういうことであって、全く貿易とは関係ない、連合国家を造ろうということです。この首長はデモクラシーで選べるのか、選べません。民主主義、ここが大問題。

「民主主義で自分の意見が反映されるのだ」と、皆さんは信じ込んでいるけれども、結局、ユナイテッド・ネーション（国際連合）で決定したら、皆、行かなければならないでしょう。アフガニスタンでも参戦しなければいけない。「TPPは国家を超えた機構の中になる」ということ。だから、そこで決められたことは、ここで住んでいる人と全く関係のない次元のことでも起こり得るわけです。

今、ウクライナで戦争が起こって、ドイツの国民がほとんど反対しているけれども、ドイツ政府はNATO（北大西洋条約機構）の一員だから、あのウクライナに武器弾薬を送らなければいけないわけ。でも、内戦なわけですね、止めようとしないうちです。自分の政府がそうやっても、他の国民はどうにもならないわけ。そのNATOの一員であるから、もう規制されて

しまう。それが TPP の本当の姿です。

こういうことを誰一人、言わないという現状であるから、消費税 10 %にしたら、まっしぐらに沈没します。これはできないわけ。もうタコが自分の体を食いちぎって、限界なわけ。だから、8 %でもうそろそろおしまいというところ。でも、IMF（国際通貨基金）は世界の加盟国にお金の帳尻を要求しているわけ。お金を刷ったら、それだけの利益、どこから出てきますか。絞り上げるだけ絞り上げて、もう出ないところまで来ているわけ。

ということは、私が言うべきことではないわけです。偉い政治家たちが日本の国民の命を守り、日本をピースフルな平和国家、安定な平安な国にしなければいけないのに、日本中に巨大なビルディングを建てたから、これが幸せですか。そのために命を落として、働いて死んでいく、過労死ですか、それが幸せでしょうか。何のために、誰のために、見せるために、誰に見せるために、何も無いわけです。

そこのことをお釈迦様がおっしゃって「だまされないように、自分で法を体得しなさい」と、これやれば、間違いないから。「愛の中で生きなさい」、これやれば、間違いないから。実に簡単なことです。でも、「いや私の家族があるから、この熱い石は離せない」と、そんなことばかり言っている。そら当然するべきことをしなければいけないのに、今度もアメリカから言われて、今度 12 機のオスプレイを厚木に持ってくるのかな。もうアメリカも限界で、では国内に移すと。国民なんて関係ないわけです。

今度は話が飛ぶようだけど、この京都のちょっと先にレーダー網をつくって、民間飛行機は飛べないわけです。でも、そのエリアはフライングドクターとあって、結局、お医者さんが飛行機、ヘリコプターを使って、患者を引き上げないといけないわけ。いちいち米軍の長官に電話かけて許可をもらわなければ、そこを飛べないわけ。それを「日本を守るため」と、おかしい話ではないですか。患者を守れないわけなのですね。

だから「なぜそういう無駄なことをするか」と、誰も言わない。結局、マレーシア・エアラインが夢のように大惨事から事故を起こして消えたか、誰も言わない。だから、そういうところに惑わされずに、これは今の世ではなく、いつの世でも発生したみたいですが、古代ローマでも。まじめに生きようとする人々に対して不合理なことばかりみたいです。そこで、それを救おうとして、たくさん偉い聖者たちが「こうではないよ、ああではないよ」と。でもね、こういったものをまた利用するわけですよ。そういう本当にしようとする人たちを神に持ち上げて、自分は甘い汁を吸うと。どんなシステムでも、それが発生するわけですよ。

プラトンが「この政治体系は王政国家、専制国家、民主国家、商業国家、この四つ。このバリエーションしかない」と。これはね、1 万年前の『ニップール・タブレット』（『Nippur tablet』）に書かれていることであって、その書き写しであるわけですよ。プラトンのミュージックコード、弦の張り方、そこに書かれていることを移し替えたわけです。だから、新しいことは何一つないわけです。

「自分の心の中に一切の法がある」から、「それを観なさい」と言っているわけ。ナーマ・ルーパ（心と体）、名色（みょうしき）。それを観る方法が「法随観」という方法があります。ただ、それが非常に難しい場合は「ただただ観音様に帰依しなさい」と。そうしたら「自動的に浄土に往けますよ」と、阿弥陀の名前を称えて。でも、阿弥陀ってあるのかな？ 浄土っ

であるのかな？ もう嘘でしょ、飲んでも食っても何してもいい、それは往けません。もう心が重いからね。三十四善心¹が発生しないわけですよ。不善心が発生したら、そこへ往けないわけですよ。つまり、プログラムがぶつ切れだからね。ぶつ切れのプログラムだったら、作動させようとしても、コンピュータが作動しないわけですよ。というふうな世界に住んでいるわけですよ。

因果の法則を超える神はなし

【参加者】

日本人って、昔から自然の中に神をみるとか、人間以外の中に、自然の中の法則の中に、神をみるところがあると思うんですけど、そのところを。

【水源師】

それは日本だけではありません。私が今回、エクアドルに行くときに、エクアドルになぜか行かなければいけないように呼ばれるわけですよ。エクアドルに行ったら、アマゾンに行かなければいけないわけ、アマゾンが呼ぶわけ。アマゾンの森林の中に入っていったら、瞑想したら、アマゾンの神が出てきてね、女神がサァッと、それは美しい方ですよ、匂いも。「ビルカバンバ、ビルカバンバに行きなさい」と。それで、ビルカバンバに行ったら、億万長者の方が家を用意して待っていたわけですよ。そのことをあなたは「神」と言っているわけですよ。



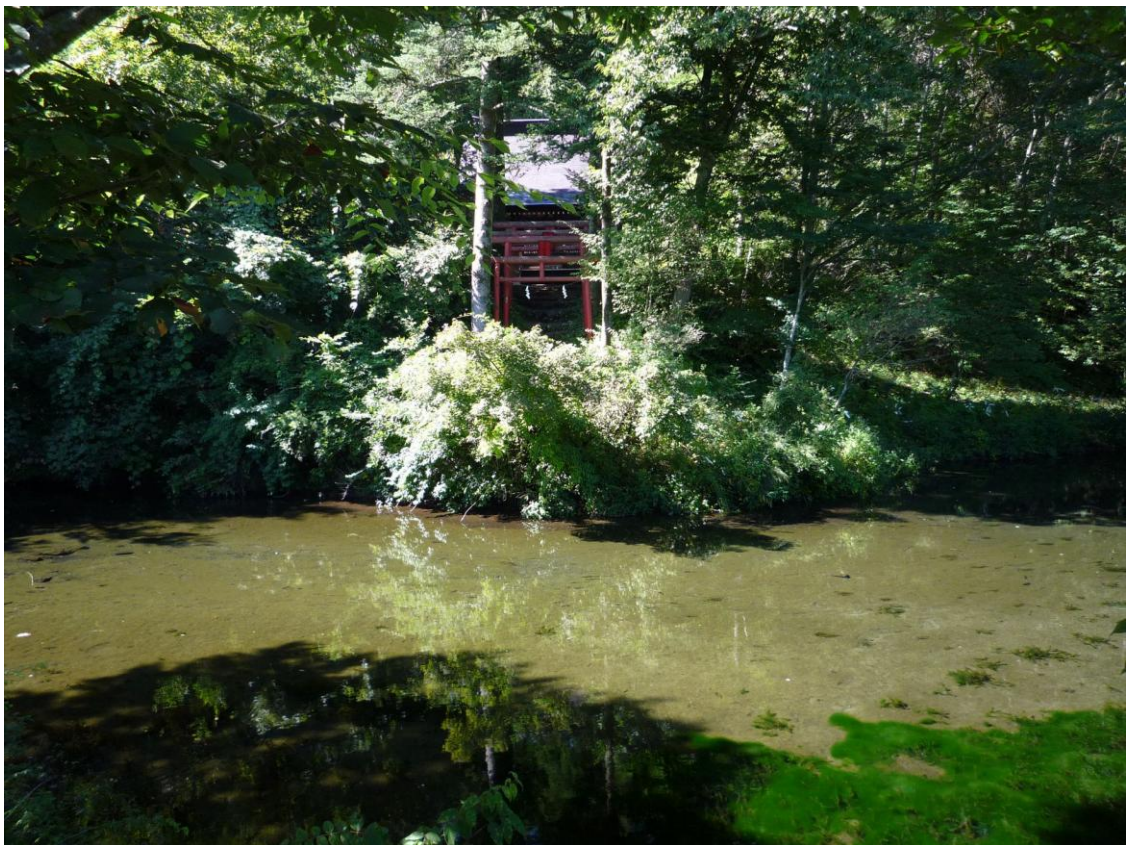
¹ 善心の 34 種の要素。意識 1 種、共浄心所 19 種、共一切心心所 7 種、雑心所 6 種、慧根 1 種で 34 種になる。



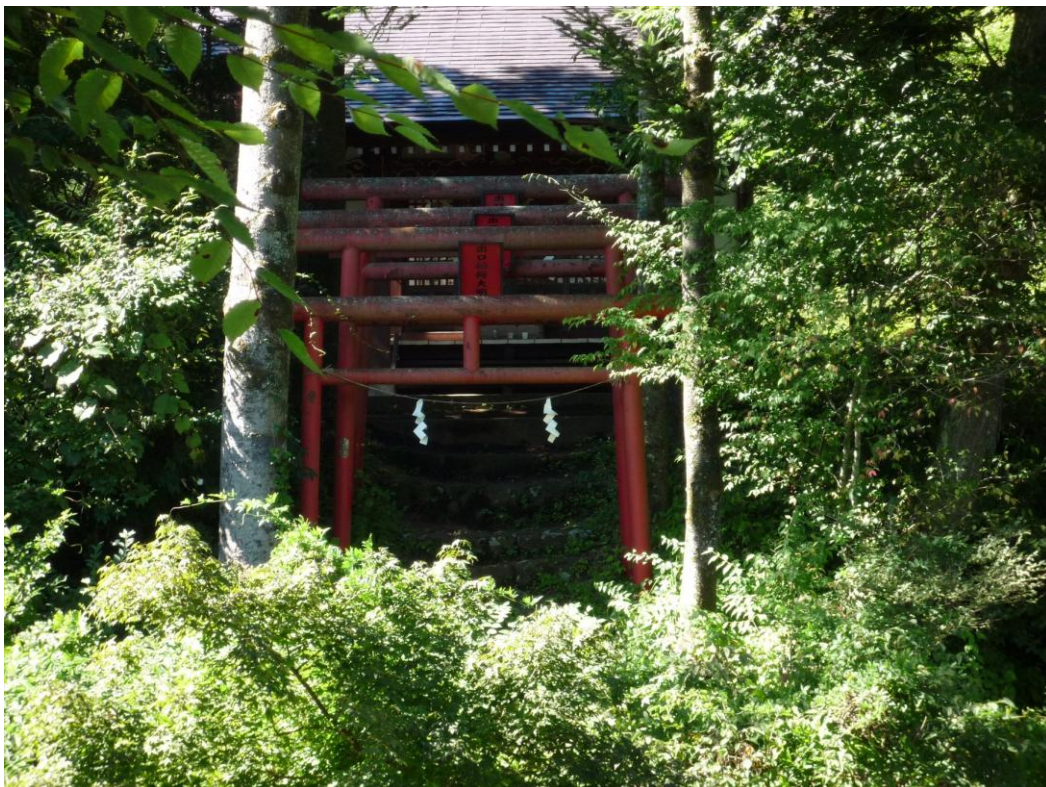
水源禅師に寄進されたビルカバンバの瞑想センター

また、メコンデルタに行けば、美しい顔だから、もうこの世にいないような方が、きれいな衣を着て、その衣は一切の生命体をつけて、もうこの世の美しさではないです。「これはすべて私の子どもたちです」と、そのことをあなたは言っているでしょ。それはみんな尊い方ですよ。そういう方が満ち満ちているわけです。このアフリカにしる、アマゾンにしる、北アメリカに行けば、森に入れば、そういう目に見えない、そういう神々が現れて、そして助けようとするわけです。

瞑想の力があれば、それが観えます。瞑想しないで「神、神」、簡単には見えません。それは北の神々も美しい方々です、サァッと顔も。この世のものではないですよ。でも、ちゃんと観せます。また龍神様もちゃんとお告げがあるときは、サァーッと観せますよ。だから、ただ絵を描いて、あれは空想ではなく、本当にそのとおりです、ということを知りたいのですか？



難陀龍王をまつる出口池
(2012年9月16日 忍野合宿)



出口池の高台に建つ出口稲荷社
(2012年9月16日 忍野合宿)



八大龍王尊御宝前の龍王堂
(2014年9月27日 生駒合宿)

つまりね、「自分の心をいかに清めるか」ということ。「愛の進化しかない」わけ。「それなくしては、神もそういうことをしなければ、神も助けることはできませんよ」というメッセージを戴きました。『我、我』ではなく『人のためにいかに尽くすか』によって、あなたは決定されるわけです」ということをお釈迦様もおっしゃっていました。

だから「神、神、神」って後を付いていったって、何にもない。イスラームで「アラー、アラー、アラー」ってもうシリア爆撃、イラク大破壊。その方たちにとっては日本どころか、それ以上に砂漠の中で信じている。砂漠にはすごい権化様がいっぱいいますよ、予言もできるし。自然というのは日本だけではない、シベリアでも、全世界にあります。「この固定観念はやめなさい」と、お釈迦様が言っているわけです。

それであれば、「なぜあなたに萬の神が出てこなかったか」「なぜコノハナノサクヤビメ（木花咲耶姫）が出ないのですか」と。「修行しなさい」と。「拝むだけではだめです」と。この神々は、いくらお布施をもらっても使えないわけです。いくら穀物を捧げても、心が浄化していなければ、あまり意味もないわけ。それよりは「あなたが『この世に、いかに尽くすか』の功德によって、ご褒美をあげるし、また出ますよ」と、そういうことです。そこを忘れないように。「自然の神、神」と言ったって、北アメリカのインディアンも一生懸命、拝みますよ。でも、そこで本当に信じて行動した人間だけに力を与えます。

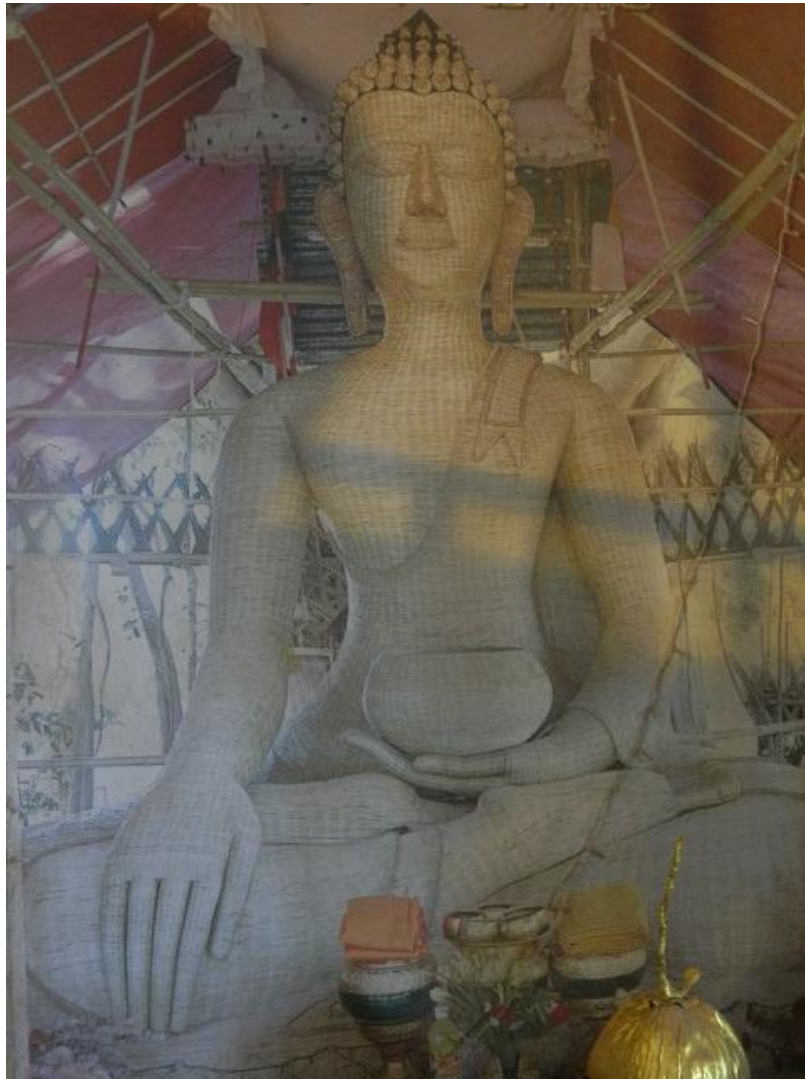
そうでなければ、逆に悲劇が起こります。神が怒るから、人間と一緒に。怖いですよ。拝んで、拝んで、何もしなかったら、それこそ私の子どもに「これやれ、これやれ」、「ああ、お父さん、お父さん」、「これやれこれやれ」、いつまでもなんか、頭に来るでしょ。つまり、私も人間だからね、「子ども」ということはないのだけれども、「やる・やらない」のことでなってしまうから。そのことです。口で言って思ったことをやらなければ、神様でも怒ると。神様が要求していることは「いかに人のために尽くすか」と。尽くさないで「尽くした」と。それで、福島原発事故を起こして「神、神」と言ったって、それは無理、無理。始末しないで横向いて「神、神」っていくら拝んでも、それは無理、無理。どこがどうなるか、もう決定されてしまっている。

「そこには神もありません」と、お釈迦様は言っているわけ。「いくら頼んでも無理です」と。因果の法則があって、結局、そういう偉いお坊さんでも達磨大師の歯を折ったら、すぐ閻魔大王の中に、宮殿に呼ばれるでしょ。そのときにどの神様が助けてくれますか？ 日本に生まれて、達磨大師が来て、あなたが歯を折ったら、すぐに日本の神様が助けに来ますか？ 日本に生まれたからといって。日本の神々だって恐れ多くて「何をしたのか」と怒りますよ。お経を読んで天から花を降らす、地下から金の蓮の華を上げるといっても、そういう生死を超えた偉い方の歯を折ったといえど。涅槃が決定されたような方でも、閻魔大王の宮殿に呼ばれて12人の裁判官から詰問を受けるでしょ。そのときに「日本の神様、助けてください」と、それ以上の力のある方がいるのですか？ 天照大神・大御神だって怒ってしまいますよ。「なぜ、お前したんだ」と。「こういう尊い聖者は何もあなたに悪いことしていないのに、何をしたんだ」と、そのこと。

そういういくら頼んでも、そこには神はおられません。「まず自分を正して、人のために尽くしなさい」と、どの神も言っています。どんなアマゾンの神も一緒です。「自分の部族を助け

たのか」と、狭い意味でね。自分の部族を助けることばかり考えて出ないから、次には、そこから出て荒らされて一遍に死にました。アズテック（アステカ）も 100 億の民を殺されたのです。「神、神」と祈り、そういう行をやったおかげで、西洋から来た病気をうつされて、ペストかな。バァーッと全部、死んでいった。それで、またアメリカ・インディアンも 6000 万おりましたけど、そういうばい菌の付いた衣をどんどんただであげて「うれしい、うれしい」と被って行って、みんな死んでいった。

神がそんなにおるのだったら止めるはず。でも、結局「そういうものに触れた」ということで助けることはできない。「自業自得」ということで死んでいった。その前に夢も見せるし、お告げも見せるし、全て無視、無視、無視で、今度「どうしましょう」と。そういう「虫のよい話はない」ということ。



天界から教わり、竹で作られた
ミャンマーの仏（完成前）



天界から教わり、竹で作られた
ミャンマーの仏（完成後）

日本の神々を拝むにしても、そこで「どれだけ人のために本心で正しく生きたか」ということが決定になります。ただ、この世の中に 100 年、200 年の中で「正しい」と言っても、それが千年、万年の単位で意味があるのかと。万年前に日本はあったのかと。10 万年前には海中の下にあったわけです。これが全世界の中心になって、全てここから教えを出すと。これちょっとおかしいと。すべてこの宇宙とか、この地球はからみ合って助け合いしかないわけです。

マルコポーロが東洋に来て、うどんを持って、あのスパゲッティができていでしょう。前はスパゲッティがなかったわけです。そういうふうを持ちつ持たれつ。だから、「人」は、こう書くでしょ、持ちつ持たれつ。それを「これは私の国」「これはあなたの国」とやったおかげで、リビア、シリア、イラク、アフガニスタン、パキスタン。

つまり、「ムスリム（イスラーム教徒）しか一切の宗教はなし」と孤立したことによって、そうなるわけです。結婚するのだったら、イスラームに改宗しなければ、絶対に嫁さんにな

らないし、結婚もさせないと。最悪の場合は、もう殺すと。そういうことはマホメット（ムハンマド）さんは言っていないはず、書き換えられたはず、そこが恐ろしいところ。シャリーア（イスラーム法）というのは、マホメットの時代にはなかった。それから数百年後に作られたわけ。それで今度は「シャリーアはイスラームにとって、とっても大切な戒律である」と。「食べ物もこうでなければいけない」とか。

だから、日本の神を知りたかったら、直接、日本の神と対等に話して「それが何か」でなければ。でも、顕密でいけば、文献では無理ですよ。だから、行をして、本当にどうなのか、そうなのか、知らなければいけない。それで、どれくらいのこの力で、この日本を助けているのか、そうでしょ。その第二次世界大戦のとき、国も焼き払われて、何千万の人が死んでいったでしょう、この責任は誰にあるのですか。国民に「働け、働け」と言って、まじめに働いて、今度は福島でしょ。このツケは誰が払いますか。神があつたら、こういう人をまず罰するのではないですか、しないでしょ。そこのところを取り違わないように。どの「神」を言っているのか、地方の氏神なのか、ご先祖様のご加護の神なのか。

全てバイブルに書かれているのはね、アダムは神です。神の神格と一緒にです。イブも一緒です。1840年代かな、イスキア島でマリオ・パラディーノというお方がね、ナポリの大富豪の家に生まれて、法律の先生になって、一生間違いない生活が準備されて、フィアンセも絶世の美女で、大金持ちで何の問題もないときに、その女性とボートに乗って船を漕いだときに、はたと全部が灰色になったわけ。

それで、一人でそのイスキア島に行ったわけですよ。一人で1年間。そうしたら、ある月の夜に、満月の夜にスタスタと。天女みたいな女性がサァッと歩いてくるわけ。それで、その方と一年間、暮らして、その方いわく「私はイブです」、アダムの奥さん、イブ。「アダム・イブ」といったら、そういう世界では神の世界ですよ。全てアブラハムとか、モーゼとか、その下でしょ。その「神」のことを言っているのか。だから、そういうイブが出てきて楽しく暮らしたそうです、

それで、その後には一切を捨てて、牧師になって、最後には、その島でビショップ、司教になりました。そこの一番偉い枢機卿というのですかね。それになって、この人がカソリックの貧しい人を助けようとして、自分の給料全部はたいて、そういう職業学校、世界で一番最初に造ったわけ。それで、この人が「若きカソリック運動」といって、1年に1回、全世界の若い人を集める運動が今でも続いています。

こういう人が偉いのか、それとも一地方で、そのときの氏神の方が偉いのか、それは負けるでしょう。だから、カソリックがここまで伸びるし、サルベーション・アーミーというあれもね、1800年代に実際の子どもがパンを盗んで絞首刑になったわけですよ。「これはひどい」ということで、「命が大切なのか」「パンが大切なのか」と。「これは聖書の教えに反するのではないか」「どこに愛があるのか」ということで、今でもドンドコドンドンドンと、クリスマス・サルベーション・アーミーで世界を救おうとしているから、これだけ力があるわけ。それを一地方で「神、神、助けてください」と言ったらね、今、アマゾンでは、それは尊い生き方していますけれども、外国からブワァッと来て「アマゾンジャングルを買ってしまおう」と。「そこで石油発掘してもう全部、搾取してしまおう」と。

そういうことを本当の神だったら「こうなるよ」と予言して「そうしてはダメですよ」と、それがホピ・インディアンですか。「アリゾナの予言」(ホピの予言)とってね。これからの世の中について、予言されていることは、こう言っていますね。「これから鉄の道路ができます」と、汽車のこと。「その後には今度は空中に鉄の網ができています」と、電線のことね。そういうこと、はっきり予言しています。

「そのときに、心を磨く方に行くのか、それとも物質世界に行くのか。この二つの分かれ目がある」と。「もし物質世界に行けば、これから暗黒世界に入ります」と。というシャーマンのそういう予言の世界をあなたは知りたいと思うのですか。「神、神、神」と助けてくれる神を思うのですか。でも、そういう一地方のホピ・インディアンでも、それくらいするわけ。それくらいの力がなければ、自分の一族を救えないわけですよ。岩に刻んで預言書がちゃんとあるわけ。

驚くことなかれ、その与那国の海中都市、一切この地質学者は手を付けようとしないうし、潜って研究しようとしないうしけれども、アメリカのビデオテープを見てみたら、与那国の海中都市の壁にインディアンの冠を付けたインディアンの顔が彫ってあるわけですよ。ホピ族の予言によれば、「遠い東の国から、私の兄弟、お兄さんがやってきます」と。この日本のことです。まあ、そういうふうにはね、深く考えてください、太古の世界から続いていると。それを全く知らないから「OK」と、それで「ここだけ」と、そういうホピ族が日本を待っているのですよ。その証拠として、与那国の海底に行ってみなさい、そこに刻まれているから。それで、預言書にちゃんと書いてあるわけ。「東の遠い彼方からやってくる」と。そのインディアンの顔が彫り付けてあると。

それで「神、神」と、ここだけ。もう遠い時代にもう分かっているわけ。その神々も、この神々も。だから、一地方で考えて、そういう蓋(ふた)に押し込めたら、悲惨なことになるでしょう、「ここ、ここ、ここ」で。福島のある放射能は太平洋全部を汚染して、あと3年くらいで魚が食べられるか食べられないかという報告も聴いて、カリフォルニアは流産率が20倍に上がっています、カリフォルニアですよ。それで、なぜここで「ここだけのこと」と言うのか。神様、怒っちゃうよ、こんなことばかり言っていたら。ホピ族にちゃんとと言われて、予言でちゃんと彫刻して知らせているのに、神様たちも本当に困るのではないでしょうかね、「もういい加減にしてくれ」って言われるかもしれないよ、そんなことばかりしたら。

御嶽山で不幸にも64名の方の命を落としましたがけれども、そこにはちゃんと神社があるのですよ、あり得ない話、神社があつて。そうでしょ、そのために造ったのでしょ。「やめなさい、そんな馬鹿なこと、本当の心で、自分で私を崇めるのだったら、予言で教えてあげます」と。ただ大きい建物を造って遊んだり、山を登って六根清浄するわけでもなし、六根清浄。六根清浄、六処一目、耳、鼻、口、肌、心。六処。六根清浄もしないで、ただ遊ぶことばかり。神、神、氏神、日本の心、一体どうなるのですか。その神々は遠い北アメリカまで続いているのに、兄弟たちが待っているのに。というふうに、仏法をもてば、そこまで観えるわけですよ。だから、日本の言葉はね、アフリカ言葉とよく似ているのですよ、歌を聴いたら。特に沖縄の歌はね、遠いアフリカの歌と。

「全世界は一つ」と、口で言いながら、「この神」となったら、大変おかしなことになります。「口と言っていること、違うじゃない」と。そういう子どもが、自分の子どもがやっていけば、親として頭に来るでしょ、いくら「お父さん、お父さん」と言っても、怒るよ。ますますカッカカッと来ると思うよ。自分の言っていることをそのとおりに実行していたら、「よい子だ、よい子だ」となるけれども。世界平和を祈って本当にそのためにやるのだったら、「ああよいことしている」と。言っていることと、やっていることが違っていたら、どうなりますか？ という恐ろしい時空だったのですね、護摩を焚くとき。

こう言って「とても飛び離れた話だから分からない」と、それは当然。勉強して、ずうっといけば分かるくらいであって、「分からないで全て教えてくれ」って教えてもらって、先生から全部、解答して、試験マル、マルマルマル。はい、全部マル。いつでも先生から教えてもらってマル。「自分では勉強しない」と。では、学校に行く必要もないし、先生が全部、解答を書いてくれるし、何のために。それを「神頼み」って言っていますね。自分でやったことは放っておいて、アァァッと（拝む）。

でも、そのときは助けますよ。でも、その後で、どこかでツケを返さなければいけない。「それをしなければ、因果の法則で、どんな神でも助けることはできない」と、私は言っているだけ。「因果の法則を超える神はなし」と。だから、その一神教のユダヤ教、キリスト教、それからイスラームの原点の「創世記」(Genesis)の中に、アダムに神は言ったでしょ。「人間は、悪しきこと、善きことをする生きものなり」と、「クサラ・アクサラ、善心・不善心を知る生きものなり」と。これを解読するのは、お釈迦様の教えてくれた「ダンマ」、「法随観」しかないわけです。これを「サルベーション」「救世」というわけ。

それは、ただ見て拝んだって何にもならないよ。いつも、この犬がね、巨大な柱の中で「出よう、出よう」と思っても、入り口を探してクルクルクルクルクルクル回っているのが、私たちの状態、分かりますか。だから、まず神を拝む前に「自分がどれだけのことを修行したか」と、それを実証して分かることであります。「それなくしては神も何も無い」と。まやかして一時的に救われるけれども、その後は大変なツケが来ます、ほとんどだまされます、そういう「魔法」というのもあります。それは一時的なカンフル剤であって、究極的には根本の最も病んだところを取り出さなければ。それを「仏法」と言っています。

だから、その「法」は「仏法」しかないわけです、明快に教えられているところは。今のところ、文献ではそれもないし、「実際の法」として修行方法を教えてくれるところも「仏教」しか、私には見当たりません。ヒンズーでも秘密になって、あるかもしれない。他の宗教でもあるかもしれない。でも、一般公開されてあるのは、この「法」だけなのです。ということですが、納得いきましたか？ だから、「もう少し大きく、世界のこと、歴史のこと、どこまでこれが本当か」ということに頭を広げていかなければ。だから、「針の穴の中では無理だ」と、キリスト様が言っているわけです。「そういう中で教え込まれたら、どこにも行けません」ということ。

だから、『ニップール・タブレット』(『Nippur tablet』)の中には「42 万年前に、このことが起こりました」と、明快に書いてあるわけ、ノアの方舟のことが。エジプトのお坊さんは「私の国が 2 回、西から太陽が上がり、2 回、東から太陽が上がっています」と、地球の

自転がそれくらい変わったわけなのです。「まあ、古代のものであるから、関係ないでしょう」と。でも、古代の太古の文献に微積分がちゃんと書いてあるわけなのですよ。微積分というのは、サー・アイザック・ニュートン、ライプニッツ、この100年ちょっと前に数学ができたのだけれど、それがちゃんと書いてあるわけ。私が数学をやったから分かるわけ。これが何を意味するか、数学を勉強しなければ分からないよ。あり得ないことが、そこにあるわけ。

だから、「本当に勉強するのだったら、勉強してください」ってわけ、生半可な勉強ではなく、本当に真剣に追跡して、自分で身をもって、そういうものが本当であるか。私は幸い数学を勉強させてもらう力があつたから、昔のそういうものを見たら、何であるか、すぐ分かるわけ。文献勉強ばかりしていたら、絶対に分からない。というのは、数字はもう簡単明瞭に何を意味しているか、分かるからね。実は、特に数字というのはないわけ。ギリシャでも使っていないわけ。

だから、ジオメトリー（幾何学）。角度とか距離では、できないわけですよ。全部ジオメトリーで表すしかないわけ。数字で表せないわけ。パイ（ π ）とか、そういうことで。だから、数学科の大学二年生になれば、白紙を渡されて「 π （パイ）を証明しろ」と、白紙から全部、書き込んでいかなければならない。ダーッと、なぜこうなるか。まず「円は何であるか」、円を実証して「これが円である」ということからいくわけですよ。だから、そういう原点・根本をもって、こういうふうに言えますけれど、もしそういうことがなかったら、土台がふらふらしているから、あんまりうまくいかなかったと思う。



バガンのフラワー・オブ・ライフの壁画
(ジーザス・クライストのシンボル)

そういうことでね、ヴィパサナー（観）をやるにしても、禅をやるにしても、知識はいらないわけ、一切空っぽにしたらスツと。逆に、そうでなければ、私みたいに無駄な知識をいっぱい入れなければいけないわけ。でも、これは無駄ではなかったわけ。「全部一つ」としてつながってきます。それで皆さんに、こういうふうに「あーそうかなあ」というお話ができるわけ。ということは、無駄ということは一つもないわけ。それで「これは嘘だ」「これは本当だ」ということも分かっていくわけ。それで、こういう嘘の続きが、何が起こるかも分かるわけ、昔の経典に、もう書いてあるわけ。今、私たちはどこにいるかも分かるわけ。

だから、神もすばらしいです、助けてくれるから。でも、いつまでも、いつまでも、お医者さんから薬もらって、また帰ってきた、また帰ってきた。もういい加減、お医者さんも頭痛くなると思いますよ。という「本当に治る方法」をお釈迦様が教えているわけです。今、ここで法に触れたら、本当に問題がない。必ずや仏法の国に生まれるわけ。これほどすばらしいご褒美はないわけなのですよ。「神、神」と言っても、その未来も見えない、どこに生まれるかも分からない、では、保証もゼロですよ。

「法随観」をやれば、「私がいつどこで死ぬか」も観えます。「どういうふうに死んでいくか」も観えます。「次の世、どこに生まれるか」も観えます。時空を飛んでしまうわけです。ただし、そのお坊さんみたいに、私が慢心を起こして、そんな悪いことしたら、その時点で未来が変わります。そういうことです。



願いを叶えるミャンマーの川の女神



バガン南東の土着信仰の聖地ポツパ山
(日本の伊勢神宮に相当)



聖地ポツパ山の仏

水源禪師法話集 36

(2014年10月5日 京都法話会)

2015年10月13日 発行

編集兼発行 一乗会